

ねん
2025年

なかの
中野ティーンズ会議報告書

かいぎほうこくしょ

つながる
はじまる
なかの

中野区 × KATARIBA
未来は、つくれる。



主催 中野区
運営 認定NPO法人カタリバ

ここからはじまる、
中野ティーンズ会議



参加特典
(終了者)
図書カード
3,000円分

ねん がつ
2026年3月

なかのく こ きょういくぶ こ きょういくせいさくか
中野区 子ども教育部 子ども・教育政策課

じゅたくじぎょうしゃ にんてい ほうじん
(受託事業者：認定NPO法人カタリバ)

もくじ
目次

なかの かいぎ
1 中野ティーンズ会議とは

りねん がいよう
理念・概要..... P.2

さくねんど じっせき
昨年度までの実績..... P.5

こんねんど さんかしゃがいよう
今年度の参加者概要..... P.7

こんねんど かつどうがいよう
今年度の活動概要..... P.8

かくかいじっしないう
各回実施内容..... P.13

しょうほう
2 チャレンジ詳報

ちゅうこうせい いぼしよ
中高生の居場所チャレンジ..... P.27

かんきよう
環境チャレンジ..... P.35

まちづくりチャレンジ..... P.41

しょうてんがい
商店街チャレンジ..... P.47

りそう こうきようしせつ
理想の公共施設チャレンジ..... P.52

せいとかい
生徒会チャレンジ..... P.57

わかもの しえん
若者チャレンジ支援..... P.65

よ かんそう
3 寄せられた感想

さんかしゃ
参加者アンケート..... P.70

さんかしゃ
参加者ワークシート..... P.73

ほうこくかいかんらんしゃ
報告会観覧者アンケート..... P.74

なかの ① 中野ティーンズ会議とは

りねん がいよう 理念・概要

なかの 中野ティーンズ会議は、なかのく 中野区に ざいじゅう ざいがく ざいきん 在住・在学（在勤）する しょうちゅうこうせい 小中高生が、がっこう 学校や がくねん 学年を へらへて 集まる ば 場です。なかのく 中野区を よりよい まちにする ための はな あ 話し合いや かつどう 活動を行 い、おこな 区長への ちやう 意見表明につなげる さいけんひやうめい 意見表明プログラムとして じっし 実施しています。



さんか 参加するメンバーは、じぶん 自身の ぎょうみ 興味・ かんしん 関心や にかじょうせいかつ 日常生活での ぎもん 疑問などを げんてん 原点として どの「チャレンジ」（テーマ せんたく 選択、アイデア だ 出し、アクション・ ちやうさ 調査、アクションの ぶりかえり まりかえり）

での一連のプロジェクト活動を、総称して「チャレンジ」と呼びます)に取り組みかを自分で決め、同じチャレンジの仲間とともに活動します。

フィールドワークやインタビューなどを経てテーマを深め、自分たちにしかできない「アクション」を実践し、それらを通じて感じたことや考えた「アイデア」を区長に提案します。

2025年度で23回目の開催となり、現在は「中野区子どもの権利に関する条例」(2022年4月1日施行)において定められる「子ども会議」の役割を果たしています。

区は、条例に掲げる子どもにやさしいまちづくりの推進に向けて、「子どもの最善の利益」を踏まえた子どもの権利保障に取り組んでいます。子どもが区政やまちづくりについて考え意見を表明し、主体的に参加するための機会を確保し、子どもならではの視点やアイデアを区政や地域に生かすことを目的に、本事業を実施しています。本年度からは、参加対象を拡充し、小学4年生から6年生までも参加できるようになり、事業の名称を「ハイティーン会議」から「ティーンズ会議」へと変更しました。

(「中野区子どもの権利に関する条例」より)

第3章 子どもにやさしいまちづくりの推進

(子どもの意見等の表明および参加)

第13条 区は、子どもが自分の意見等を表明し、参加する機会を確保するために必要な制度を設けるよう努めるものとします。

2 区、区民、育ち学ぶ施設および団体は、子どもの意見等の表明と参加をうながすため、子どもがその意味や方法について学び、必要な情報を得ることができるよう努めるものとします。

(子ども会議)

第14条 区長は、子どもの意見等を求めるための会議(以下「子ども会議」といいます。)を開きます。

2 区長は、子どもに関する区の計画その他区長が必要と認めることについて、子ども会議に参加する子どもの意見等を求めるものとします。

3 区長は、子ども会議に多様な背景を持つ子どもの意見が反映されるよう努めるものとします。

4 子ども会議は、参加する子どもの自主性と自発性を尊重して運営されるものとします。

5 区長は、子ども会議への子どもの参加がうながされ、子ども会議が順調に運営されるよう必要な支援をおこなうものとします。

6 子ども会議に参加する子どもは、第2項に規定することや自分が必要と認めることについて、その意見等をまとめ、区長に提出することができます。

7 前項の規定により提出された意見等について、区長は、これを尊重するよう努めるものとします。

さくねんど じっせき 昨年度までの実績

2021年度までは中野区直営事業として実施を続け、「ジェンダー」「AI」「自分らしさ」などをテーマに、中高生が生活の中で感じる疑問について調査・発表してきました。2022年度に認定NPO法人カタリバが運営事業者として参画し、学校や学年を超えた話し合いや、区長への報告といった要素はそのままに、「自分で行動してみる」ことを重視したプログラムとしてリニューアルしました。

チャレンジ テーマ	2022年度	2023年度	2024年度
1	まなや 学び舎を作る	おんがく ちいきこうりゅう 音楽で地域交流「Grandioso」	ちゅうこうせい いぼしよ 中高生の居場所 チャレンジ
2	いぬ か ぬしこうりゅう 犬&飼い主交流	かんきょういしき けいはつ 環境意識を啓発「エンバメ」	こうりゅう 交流チャレンジ
3	なかのえき あか 中野駅を明るく	がっこう がくねん こ こうそく かんが 学校・学年を超えて校則を考 える「Enjoy たの 楽しむもうはっぴい☺」	こうそく 校則チャレンジ
4	くがい ひと じまん 区外の人にも自慢 できる中野に	ちゅうこうせい いぼしよ 中高生の居場所づくり	せいとかい 生徒会チャレンジ
5	こ どもから 大人ま で自由に話せる場 みんなの語りBAR	ちいき かんけい 地域の関係づくり 「おとなりつながり」	せいじさんかく 政治参画チャレンジ
6	なかの こうつう 中野の交通マナー	ちいき みりよくはっしん なかのちりいん 地域の魅力発信 「中野地理院」	
7	なかの みりよくはっしん 中野の魅力発信		
8	なかの 中野の美味しいPV をつくる		

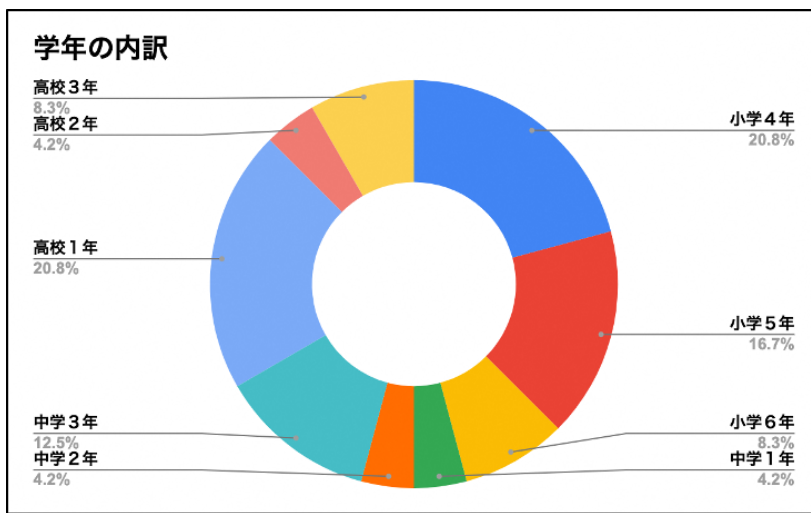
2022年度は「理想の中野」をテーマとして自分の「わくわく」から始まる発想でチャレンジを実施。2023年度は「意見表明」の場であることに重点を置き、「自分の力で地域を変えることができる」という実感がもてるようなプログラムを実施しました。

2024年度は「中高生のアクションで、中野のファンを増やす」というテーマのもと、
全てのチャレンジが一斉にアクションを行うイベント「中野ハイティーンフェス」をプログラム内に設け、実施しました。

2025年度のテーマについては、「今年度の活動概要」の章でご紹介します。

今年度の参加者概要

今年度は区内在住・在学の小中高生計24名がティーンズ会議のメンバーとして参加し、うち小学生が11名、中学生が5名、高校生が8名でした。また、学校種別では区立校から12名、私立校から12名が参加し、詳細な学年の割合は図の通りとなっています。



加えて、区立中学校から計5校14名の生徒会メンバーが協力して生徒会チャレンジに取り組み、総勢38名の小中高生でティーンズ会議を作りました。

生徒会チャレンジの参加校

- 中野東中学校
- 第二中学校
- 北中野中学校
- 第七中学校
- 中野中学校



広報用のチラシ、ポスターには、昨年度のハイティーン会議（2024年度までは中高生のみを対象としていたため、「ハイティーン会議」という名称としていました。）参加者を中心とした小中高生がモデルとして参加してくれました。

こんねんど かつどうがいよう 今年度の活動概要

①プログラムの流れ

ティーンズ会議では、興味・関心が近い小中高生でチームを結成し、7月から11月までのプログラム期間中に「チャレンジ」と呼ばれるプロジェクト活動を行っています。

今年度は、「中野区のまちをフィールドに、異学年・異年齢交流を通して、自分なりの視点で見つけたテーマを深めよう」というテーマで進めてまいりました。ティーンズ会議に小学生が初めて参加する年度となったため、小学生と中高生でグループ別活動を行い、いつでも、意見聴取の機会やチャレンジ活動の共有などでは関わり合いながら実施し、それぞれ成長段階に応じたアプローチで活動を開始しました。いずれのグループも、月1～2回のプログラム開催日にチームで話し合いを行い、アクションの実施や意見表明に向けた準備を進めていきました。

【ポイント1】異学年・異年齢交流への工夫

小学生と中高生の活動を分ける一方で、小中高生が完全に分断されないよう、運営面で以下の工夫を取り入れました。

● 交流機会の創出（かかわりしろのデザイン）

ワークショップの冒頭には、小中高生混合の「アイスブレイク」を導入しました。これにより、世代を超えたコミュニケーションのきっかけ（かかわりしろ）をつくり、お互いの存在を感じながら活動できる環境を整えています。

● 柔軟なチーム編成

「チャレンジ」は基本的に小学生、中高生それぞれの構成となっていますが、テーマによっては小中高生が混合で活動するチームも誕生しています。具体的な「チャレンジ」の内容については、第2章でご紹介します。

【ポイント2】チャレンジの活動特色

● 小学生チャレンジ：地域でのフィールドワーク

第1回・第2回のワークショップにおいて、区内でのフィールドワークを実施しました。実際にまちを歩いて自分たちの目で確認することで、地域への知見を深める活動からはじめています。

● 中高生チャレンジ：自主的な課外活動

プログラム当日以外にも、オープンチャットやオンライン会議サービスを積極的に活用しています。メンバー間で自主的に進捗確認や打ち合わせを重ね、学校や学年の枠を超えてプロジェクトを推進しています。なお、チャレンジによっては規定の日程以外にも、自主的に集まって課外活動や会議を行うなど、活発な取り組みが展開されています。

■ティーンズ会議・若者会議の年間スケジュール■

	かいぎ ティーンズ会議		かいぎ 若者会議		かいぎ ティーンズ会議の流れ
7月13日(日)	だい かい 第1回	10:00~13:00	たいけんかい 体験回	14:00~17:00	オリエンテーション
7月27日(日)	だい かい 第2回	10:00~13:00	だい かい 第1回	14:00~17:00	テーマ決め
8月17日(日)	だい かい 第3回	10:00~13:00	だい かい 第2回	14:00~17:00	アクション/ かんれんか 関連課ヒアリング
9月21日(日)	だい かい 第4回	10:00~13:00	だい かい 第3回	14:00~17:00	アクション
10月19日(日)	だい かい 第5回	10:00~13:00	だい かい 第4回	14:00~17:00	アクション/イベント
11月2日(日)	だい かい 第6回	10:00~13:00			かんれんか 関連課ヒアリング
11月8日(土)	かがい 課外	9:00~15:00	かがい 課外	9:00~15:00	なかのエコフェア
11月23日(日)	ほうこくかい 報告会	13:00~17:00	だい かい 第5回	10:00~17:00	いけんひょうめい 意見表明
12月14日(日)	けんがく 見学	13:00~17:00	ほうこくかい 報告会	13:00~17:00	わかものかいぎけんがく 若者会議見学

※具体的な課外活動の内容については、第2章でご紹介します。

②意見表明に向けたアクション「中野ティーンズフェス」

ティーンズ会議は、テーマについて話し合ったり調べたりするだけでなく、実際に手を動かして課題を発見し、より良いまちづくりに向けたアクションを実践することを重視しています。

今年度も昨年度に引き続き、全てのチャレンジが一斉にアクションを行いアイデアを形にする地域に開かれたイベント「中野ティーンズフェス（以下、ティーンズフェス）」を実施し、ワークショップやアンケートを実施しました。ティーンズフェスの結果を踏まえ、報告会ではより具体的な施策として意見表明を行いました。

■ティーンズフェスのフライヤー■

中野の小中高生のチャレンジを見に行こう！

中野ティーンズフェス

10.19 2025 SUN 10:00-13:00

なかのZERO西館 美術ギャラリー1 (〒164-0001 東京都中野区中野2-9-7)

～会場所ラポ①～
「なかの居場所のちず」～
中野の居場所をみんなで発見！
白地図に書き込む参加型ワークショップ

～会場所ラポ②～
「アオハルPHOTO」～
居場所づくりの高級ブース！フォトスポット
とお菓子でつながる体験企画

～チームぐりんぐりん～
ペットボトルキャップなどの
廃プラスチックを素材にして
しおりをつくる。アップサイ
クルクラフトの体験コーナー
を開催します！

～まちづくりチーム～
「もっとおもしろい中野」を
考えて、工作して、模型のま
ちを完成させよう。本物のま
ちづくりは、実際につくって
みることだ！

～若者の意見表明しやすい
まちづくりチーム～
学校だけで終わらない。な
かから、まちから見える、「若者
の声」が反映されます（まち）
を目標して、オリジナルのア
ンケートを実施します！

～生徒会チーム～
経営案やスライドを通して、
いしめ問題や相談に行くこと
の大切さについて考えるイベ
ントです。当日はぜひたくさ
ん意見交換しましょう！

～理想の公共施設
チーム～
冒険せ。みんながうれしい旅
路！「こんなことできない
いな」をアンケートで火
蒸。みなさんの回答待ってま
す！

～中野商店街チーム
-KARL*～
中野区にある歴
史館が大人も子どもも楽しめる
居場所になるにはどうしたら
良いかアンケートを通して皆
さんと一緒に考えたいです！
*チームメンバーの協力を得ます

中野ティーンズフェスとは
中野区主催の中野ティーンズ会議に参加する約30名の小中高生が、
7つのチャレンジに分かれて意見交換やフィールドワークを行い考えを深め、
小中高生からの提案やアイデアを小中高生自身がカタチにするイベントです！

ご参加にあたって

- ・本イベントはどなたでも無料でご参加いただけます。途中の入退場も可能です。
- ・記載されているイベント内容は一部変更となる場合があります。
- ・会場には原則公共交通機関でお越しください（駐車場は事前予約制で、基本的に荷物の搬入・搬出、身障的な理由がある方のみ利用できます）。
- ・当日の開催内容により、会場の入場制限をかける場合があります。
- ・ごみは全て持ち帰りとなります。予めご了承ください。

お問合せ 中野ティーンズ会議運営事務局 (NPOカタリバ)
nakano-katariba@katariba.net
なかのZEROにお問い合わせ頂いたら後のお返事はできませんのでご注意ください。

主催：中野区・中野ティーンズ会議

③ティーンズ会議参加者を支える「メンター」

ティーンズ会議では、各チャレンジ専属のメンターを配置し参加者の活動に伴走しています。参加者一人一人の興味関心や取り組みへの意欲を捉えながら、チャレンジの活動が円滑に進むようアイデアを引き出すサポートなどを実施します。

メンター同士でも各チャレンジの情報共有を行い、活動に結びつきそうな地域の情報や人の紹介などを積極的に実施して小中高生のチャレンジを発展させました。

■ワークショップ中の様子■



④中野若者会議との連携

ティーンズ会議開催日の午後には同じ会場で「中野若者会議」も開催されており、ティーンズ会議のアクションを実施したイベント「なかのエコフェア」にて若者会議のメンバー・メンターが協力したり、区長報告会の際には各チャレンジの発表に対し若者会議メンバーからコメントをもらったりするなどして、連携を図りました。

■11/8なかのエコフェア2025：若者会議メンター・メンバーと連携・協働している様子■



かくかいじっしないう 各回実施内容

DAY1 7月13日 10:00~13:00

チャレンジ検討・フィールドワーク①

1 アイスブレイク

新聞紙を使ってできるだけ高いタワーをつくるゲームや自己紹介ゲームを通じて、初めて会う仲間と打ち解け合いました。

尚、アイスブレイクは2回目以降のワークショップでも継続して行われ、参加者間の関係構築につなげ、スムーズにワークショップへ移行できるようにしました。



2 (中高生) チャレンジテーマのブレインストーミング

中野区の基本構想をもとに、中高生が身近に感じられそうな「環境」「教育」「まちづくり」「若者のチャレンジ」「居場所」というテーマを提示しブレインストーミングを行いました。

時間を計り、全員が上記5つのテーマについて検討できるようにしました。テーマ名から自分の考えるキーワードを連想し、そのキーワードについて「現状どうなっているか」「これからどうなってほしいか」を考えました。



それぞれのチャレンジの活動内容は、第2章でご紹介します。

3 (小学生) フィールドワーク①

中野のまちについて知り、自分なりの課題意識について考えてもらうため、フィールドワークを実施しました。5人前後の小グループに分かれ、サブカルチャーの聖地である中野ブロードウェイに向かいました。フィールドワーク中は、メンターと会話しながら和気あいあいとした雰囲気でした。

フィールドワークの前後にワークシートを用意することで、ただ見るだけではなく、フィールドワークの内容が後のテーマ決定につながるようにしました。



4 全体共有

ワークショップの最後に、ブレインストーミングで話したことやフィールドワークで得られたことを共有しました。この全体共有の時間は、第2回以降も毎回のワークショップで行いました。



DAY2 7月27日 10:00~13:00

チャレンジ決定・フィールドワーク②

1 (中高生) チャレンジテーマの決定

前回のブレインストーミングで出た内容と、自分の興味・関心を照らし合わせ、どのチャレンジで活動するかを決定しました。その後、どのような活動を通じて何を実現するかについて各チャレンジで話し合いを行いました。



2 (小学生) フィールドワーク②

2回目のフィールドワークでは、中野マルイに行きました。初回同様、フィールドワーク前後にワークシートを記載することに加え、中野マルイのご担当者に向けた質問をメンバー・メンターで検討し、フィールドワークで見たこと・聞いたことを、より「自分ごと」にして考えられるようにしました。



DAY3 8月17日 10:00~13:00

かんれんか 関連課ヒアリング・チャレンジ けってい 決定

ちゅうこうせい 中高生は、これまでのワークショップで話した
ないよう しんちやく 内容の進捗について区役所の関連課と話し、気に
なるテーマについてヒアリングや質疑応答の時間をと
りました。

しょうがくせい 小学生も、2度のフィールドワークを総合的にふり
かえり、自分の関心のあるテーマについてブレーストーミン
グした後、テーマ別のチャレンジに分かれて活動を開始しまし
た。中には、中高生チャレンジの進捗を聞き、中高生の
チームに合流する小学生もいました。



DAY4 9月21日 10:00~13:00

じゅんび アクション準備

10月のティーンズフェスに向け、各チャレンジで実施するアクションの内容を考え、
当日の流れや資料などの準備を協力して行いました。

区長への意見表明を見すえながら話し合いを重ね、どのようにしたら成功するかを検討
しました。ワークショップ冒頭には、昨年度「中野ハイティーンフェス」を経験した参加
者からの感想や意見の共有もしてもらいました。



DAY5 10月19日 10:00~13:00

ティーンズフェス

今年度、ティーンズフェスは「なかのZERO」で開催し、各チャレンジがブースを出展し、それぞれのテーマに沿ったアクションを行いました。当日は小中高生から大人までの様々な方々が参加し会場がにぎわいました。

区長も参加し、メンバーや来場者とともに楽しむ様子が見受けられました。また、会場内の装飾や開閉会の言葉は小中高生有志の「ティーンズフェス実行委員」が中心となり行いました。



■居場所チャレンジ企画 「なかの居場所のちず」

「アオハルPHOTO」

居場所チャレンジは2つのテーマに分けてアクションを進めてきました。

「なかの居場所のちず」は、区内の居場所の「情報発信」について関心のあるメンバーが集まりました。

中野区の白地図を用意し、来場者の皆さんに居場所があると付箋を貼ってもらい対話をしました。



「アオハル^フPHOTO^ト」は、アオハル=「青春^{せいしゆん}を
 感じ^{かん}られる居場所^{いばしょ}づくり」について関心^{かんしん}のあるメ
 ンバーが^{あつ}集まったチームです。メンバー^{てづく}手作りの
 フォトブース^{ようい}を用意し、来場者^{らいじようしゃ}の皆さん^{みな}に思い思
 いのポーズ^{おも}をとっていただきました。



■ 環境^{かんきよう}チャレンジ^{きかく}企画 「アップサイクルクラ フト^{たいけん}体験」

アップサイクルクラフトとは、本来^{ほんらい}捨てられるはずの廃棄物^{はいきぶつ}に、アイデアやデザインを
 加^{くわ}えて新^{あた}しい価値^{かち}を持つもの^もにつくりかえることです。環境^{かんきよう}チャレンジメンバーは、ペ
 ットボトルキャップ^{はい}や廃^{はい}プラスチック^{そざい}などを素材^{そざい}にしたしおりづくりのワークショップを
 行^{おこな}いました。大人^{おとな}も真剣^{しんけん}に作る様子^{ようす}が印象^{いんしやう}的^{てき}でした。

このワークショップは、11/8に行^{おこな}われた「なかのエコフェア」でも実施^{じっし}しました。



■ まちづくり^{きかく}チャレンジ^{だん}企画 「段ボール^{もけい}模型を 活用^{かつよう}したまちづくりワークショップ」

まちづくりチャレンジのメンバーは、「行きやす
 くて、おもしろいまち」というテーマ^{かつどう}で活動^すを進めて
 きました。実際^{じっさい}に手を動か^てしブレインストーミング^{うご}
 するため、段ボール^{だん}で中野駅^{なかのえき}周辺^{しゅうへん}の模型^{もけい}をつくり、

来場者^{らいじようしゃ}から「どんな場所^{ばしょ}があったらよいか」を聞き取^きるワークショッ^とプを行^{おこな}いました。



このワークショップは、環境チャレンジ同様、11/8に行われた「なかのエコフェア」でも実施しました。

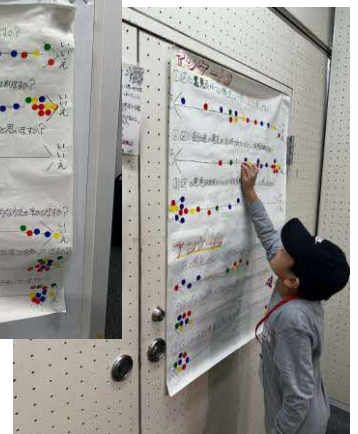
■生徒会チャレンジ企画 「いじめ問題や相談に行くことの大切さに関するワークショップ」 「中高生目線の意見収集ワークショップ」

紙芝居や討論会といった手法でいじめ問題について考えるワークショップを行いました。他のチャレンジに所属する小学生も紙芝居ワークショップに参加していました。また、中高生目線の意見を区長に届けるために、ティーンズフェスに参加している中高生向けに意見を集めるワークショップを行いました。



■若者チャレンジ支援企画「ポスター発表」

「若者の意見表明しやすいまちづくり」についてポスターを作成し、メンバーや来場者に向けて、区の既存制度（パブリック・コメント手続等）についてアンケートを実施しました。「区に対して意見を言いたい」というニーズがある一方で、制度の認知や「反映されている実感」が不足しているという意見もありました。



■理想の公共施設チャレンジ企画「理想の公共施設

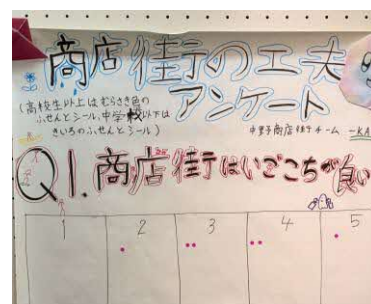
に関するポスター発表」

メンバーたちは公共施設についてそれぞれ異なる課題意識を持っていましたが、それぞれの課題意識を集約して今はない新しい「理想の公共施設」を模造紙に描きました。来場者の皆さんからたくさんコメントを頂きました。



■商店街チャレンジ企画「ポスター発表」

メンバーたちは当初自分たちが理想とする商店街像がありましたが、来場者に向けて「商店街の居心地の良さ」「商店街にどんなお店が欲しいか」等についてアンケートをとり、より広い視野で意見表明するための準備をしました。



DAY6 11月2日 10:00~13:00

関連課との意見交換・報告会準備

当初各チャレンジで目指したゴールやこれまでの活動、ティーンズフェスでのアクションの成果を改めてふりかえり、各チャレンジテーマに関わる区役所の関連課と対話を行いました。



ティーンズ会議メンバーと区の職員で、
 現時点での方向性の共有やヒアリングを行
 い、どのような取り組みを行えば課題を解
 決することができるかについて考えまし
 た。また、それらの情報を整理し、区長へ
 の意見表明の内容や資料の準備をしました。



＜課外活動＞ 11月8日 9:00～15:00

なかのエコフェアへの出展

環境チャレンジとまちづくりチャレンジが、ティーンズフェスで実施したアクション
 に更に磨きをかけて参加しました。当日は多くの地域の皆さまにご参加いただき、たくさ
 んのご意見をいただきました。



DAY7 11月23日 13:00~17:00

報告会

区長や教育長、区役所関係各課に対して、約4ヶ月間にわたって実施してきたチャレンジの活動の成果やテーマに関する意見表明を行いました。今年度は、合計7チャレンジの意見表明がありました。

1. 最終準備 (9:00~12:00)

任意参加で、本番に向けて直前の準備時間を設けました。

2. リハーサル (12:00~13:00)

伝わりやすい発表資料にするための調整や役割の最終確認を行い、時間を計りながら発表練習もしました。本番前にメンバー・メンター全員で円陣を組み、一体感を高めました。



3. 報告会 (13:00~17:00)

報告会は、以下の流れで行いました。

各チャレンジによる活動報告・意見表明

ティーンズ会議メンバーは、チャレンジ活動の内容や、活動を経て考えた意見を約6分間（テーマが2つあるチャレンジは2テーマ合計で10分）の発表にまとめました。関連課職員や区長は、発表を受けて共感・



納得した点についてのコメントや、小中高生視点の意見を区政に取り入れるための質問などを行いました。

▶コメント交流

発表を聞いた他チャレンジのメンバーや観覧者の方からご意見やご感想等のコメントを記載していただき、発表したチャレンジのメンバーへ直接手渡していただきました。ご質問やご感想を直接伝えてくださる観覧者の方もいらっしゃり、チャレンジテーマについて対話を行なっている場面も見られました。



▶座談会

2つのテーマ・グループに分かれて実施しました。1つ目のテーマは「子ども・若者が地域で活動するってどう？」というテーマで、ヨーロッパの若者政策や若者の社会参画を専門とする両角達平さん（日本福祉大学社会福祉学部専任講師）にモデレーターをしていただきました。2つ目のテーマは「子ども・若者のくらしやすいまちってどんなまち？」というテーマで、区長の参加もありました。



▶総評

報告会の最後に、ゲストの両角先生、区長、教育長から総評をいただきました。また、メンバー代表者の総括コメントもありました。

もろずみたつへい
両角達平さんより

なかの かいぎ とく くみ は、 たん なる「ユースカウンス
ル（わかものひょうぎかい）という わくぐみ を超え、 子ども・若者を
「たいとう しみん」として とら えて たいわ おこな かん
た。 わかものかいぎ きょうせい しゅうそうてき かか かんめい う
けました。



ヨーロッパには、おとな と 子どもが「きょうどうけつてい」できる し ぐみ づくり や、 たん いけん き だけに
とど まらず、 その かつどう こ わかものじしん どのような えいきょう あた ついきゅう と
ぐみ があります。 今日 の ほうこくかい せんしんてき かつどう へんりん み
く があります。 今日 の 報告会 では、 まさに その 先進的な 活動 の 片鱗 を 見る ことが できました。

くちょう
区長より

なかの かいぎ は、 まさに 「まちづくり そのもの」 だと かん
じました。 おとな あつ きょうせい まか ちいき の
ひとびと みずか まえむ かんが じっこう わたし の
かんが すがた きょう みな
考 える まちづくり の 姿 ですが、 今日 の 皆さん は まさに それを
たいげん おとな おこな
体現 して いました。 その アプローチ や プロセス は、 大人 が 行っ
ている こと と 何ら 変わり ません。 おとな と 子ども が 共に 決めて いく 「きょうどうけつてい が た
へ、 ちやくじつ あゆ すす かくしん しました。 これ から も この 取り ぐみ に ちから い
かんが
考 えて います。



また、 これまでの せいさく こ 子どもの いけん じゅうぶん と い 十分に 取り 入れ られて いた こと を 改
め て 実感 しました。 みんな の して き おとな み み かい っ たし
に その 通り だ」と ハッと き づか される こと ばかり でした。 まち の 未来 を かんが える う え で、 みんな の
いけん き ふか けつ きょう かか みな
意見 を 聴く こと は 不可 欠 です。 今日、 関わ っ て くれた すべて の 皆さんの おかげ で、 あら してん え
る ことが できました。 ほんとう
本当に あり が とう ござい ました。

きょういくちょう 教育長より

じぶん いけん しゅちょう くなくかくしよ しら
自分の意見を主張するために区内各所を調べ、アンケート
できゃっかんてき と うえ ていげん
で客観的なデータを取った上で提言をまとめたプロセスは、
ほんとう すば
本当に素晴らしいものでした。



おとな はな あ
大人が話し合いをすると、つい「できない理由」を並べてし
まい、じつげん むずか けつろん
実現は難しいと結論づけてしまいがちです。しかし、みな けつ あきら かんが つづ
皆さんが決して諦めずに考え続け
たことに感謝しました。おとな こんかい けいけん
大人になっても今回の経験を生かし、ぜったい あきら
絶対に諦めないで、じぶん かんが
自分の考え
たほうほう じっこう
た方法を実行するようにしてほしいです。

しょうちゅうこうせい だいひょう ティーンズ（小中高生）代表より

がつ はじ
7月に初めてみんなで集まったときは、それぞれが抱く「こう
なったらいいな」という個人のおち
の想いでした。それが毎回のワー
クショップを重ねる中でより具体的になり、「ティーンズフェ
ス」というかたち
にまでたどり着くことができました。そのプロセス
が、わたし
私にとってすごく楽しかったです。



ひとり
1人ではできなかったことも、おな おち も どうねんだい なかま あつ
同じ思いを持った同年代の仲間と集まることで、じっさい
実際にアクション
にうつせたり、いけんひょうめい かたち
意見表明として形にできたりしたことがたくさんありました。きょう ほうこくかい
今日の報告会
では、ほか
他のチャレンジの意見を聴くことで、あらた なかのく ふか し
改めて中野区を深く知ることができました。そして何
より、なかのく おとな みな
中野区や大人の皆さんが、わたし
私たちのぶつけた意見を真っ直ぐに受け止めてくださったこと
が、とても貴重な経験となりました。区の皆さん、メンターの方々、このような場をつくってくだ
さりほんとう
さり本当にありがとうございました。

ねんど
2025年度のメンバーで活動するのはきょう
今日で最後になりますが、「なかのく よ すてき
中野区をより良く、素敵なま
ちにしていきたい」というきもち
気持ちは、きっとみんなのなか
中野区の中に共通して残っています。これからも、
それぞれができるかたち
形で、なかのく
中野区のために活動を続けていけたら嬉しいです。

4. ふりかえり

ほうこくかいご
報告会後には、これまでのティーンズ会議の活動全体についてワークシートを使ってふ
りかえりました。その後、ごしゅうりょうしょうかく
修了証を各チャレンジのメンターが授与しました。じゅよ



しょうほう ②チャレンジ詳報

2025^{ねんど}年度のティーンズ^{かいぎ}会議では、7つのテーマに分かれてチャレンジ^わ活動^{かつどう}を実施^{じっし}しました。この章^{しょう}では、それぞれの歩み^{あゆ}をご紹^{しょう}介^{かい}します。

ちゅうこうせい いばしよ 中高生の居場所チャレンジ

「居場所^{いばしよ}が少ない」という悩^{なや}みだけでなく、「今^{いま}ある居場所^{いばしよ}の情^{じょう}報^{ほう}が中高生^{ちゅうこうせい}に届^{とど}いていない」という課^か題^{だい}に着^つ目^めしました。誰^{だれ}もが使^{つか}いやすい居場所^{いばしよ}を広^{ひろ}げるにはどうすべきかという視^{して}点^{てん}でヒアリング^{かさ}を重ねました。

また、自^じ分^{ぶん}たちの居場所^{いばしよ}は自^じ分^{ぶん}たちの手^てでつくりたいという思^{おも}いから、『アオハルFE S』の開^{かい}催^{さい}に向^むけて挑^{ちょう}戦^{せん}しました。

メンバー

- ひか (高校^{こうこう}1年生^{ねんせい})
- ことね (高校^{こうこう}1年生^{ねんせい})
- はわ (高校^{こうこう}1年生^{ねんせい})
- かなみ (高校^{こうこう}1年生^{ねんせい})
- さえ (中学^{ちゅうがく}3年生^{ねんせい})
- さあや (中学^{ちゅうがく}3年生^{ねんせい})
- そうすけ (中学^{ちゅうがく}1年生^{ねんせい})



チャレンジのきっかけ

中野区^{なかのく}には居場所^{いばしよ}があっても、「どこで何^{なに}ができるのか（静^{しず}かに勉^{べん}強^{きやう}できるか、ボールあそび^{あそ}びができるか等^{とう}）」が分^わかりにくく、十^{じゅう}分^{ぶん}に活^{かつ}用^{よう}されてい^いない現^{げん}状^{じやう}があります。ま

た、児童館や公園は小学生以下が中心で、中高生が無料で気兼ねなく過ごせるスペースは多くありません。さらに、施設が中野駅周辺に偏っており、南北の移動手段が少ない中野区では、遠方の人が利用しづらいという問題もありました。

また、そもそもまちの中に気軽に過ごせる場所や「使ってみよう」と思える場所が少ない、施設自体はあっても自分たちの居場所と実感できる場は多くないという意見もありました。

そこで、「今ある居場所を最大限に活用し、その認知を広めること」と、「自分たちが心から使いたいと思える『理想の居場所』を自分たちの手で考えること」を目指して活動をスタートしました。

アクションの内容と結果

時期	内容	補足
7/13	ティーンズ会議	居場所をテーマに意見交換
7/27	ティーンズ会議	アオハルFESの開催内容について検討
8/17	ティーンズ会議	子ども・教育政策課、育成活動推進課、地域活動推進課へのヒアリング
9/21	ティーンズ会議	ティーンズフェスに向けた打ち合わせ
9/28	オンライン打ち合わせ	ティーンズフェスに向けた打ち合わせ

10/13	か だ 買い出し	せいさく む ざいりょう こうにゆう フォトスポット制作に向けた材料の購入
10/17	さぎょう 作業	ティーンズフェス用フォトスポットのせいさく 制作
10/18	さぎょう 作業	フォトスポットのさいしゅうじゅんび 最終準備
10/19	ティーンズかいぎ 会議	ティーンズフェスとうじつ 当日 (アクションじっし 実施)
11/2	ティーンズかいぎ 会議	こ ども・きょういくせいさく か、いくせいかつどうすいしん か 子ども・教育政策課、育成活動推進課へのヒアリングを じっし 実施
11/23	ほうこくかい 報告会	

チャレンジのポイント

りそう いぼしよ かんが なか かんれんか さい こうきょうせい かんてん
理想の居場所について考える中で、関連課ヒアリングの際に「公共性」という観点に
ついてアドバイスを区職員から受け、いま すでにある居場所をより多くの人に広めるとい
てん いまいぼしよ い とど ひと とど てん ちゃくちく
点と、今居場所が行き届いていない人にどのように届けるかという点に着目しました。

すでにある いぼしよ ひろ てん については、居場所が中野駅周辺などに固まってい
てなんぼく いぼしよ すく かせつ については、居場所が中野駅周辺などに固まってい
て南北に居場所が少ないということを仮説とし、ティーンズフェスで居場所マップを作成
らいじょうしゃ いけん あつ かだい ぶんせき
し来場者から意見を集め、課題がどこにあるのか分析しました。

いまいぼしよ い とど ひと とど てん とうしょ はいこう かつよう
今居場所が行き届いていない人に届けるという点については、当初は廃校を活用した
ぶんかさい こうそう じつげんかのうせい かんが
文化祭のようなイベントを構想していましたが、実現可能性を鑑みて、まずはティーンズ

フェス内でのフォトスポットの設置に取り組みました。フォトスポットは風船を用いた
装飾などで「青春（アオハル）」をテーマに制作し、どうすれば多くの人が自分たちが
作った場に来てくれるかを考えました。

報告会での意見表明

ティーンズフェスでのアンケートを通じ発見した
「居場所はあるが、情報がまとまっていないため、
目的に合わせて施設を選べない」という課題に対し
ては、「なかの居場所マップ」を作成しました。区
のHP等で誰でも閲覧可能にするというアイデアを
提案したり、交流スペースや勉強スペースを備え
た中高生専用・優先施設の設置があると、目的に合
った施設の利用がしやすくなるのではという意見が出ました。



また、居場所が特定の地域に偏っていて、中野区の南北に少ないという点を解消す
るために、中野駅から離れている地域にも居場所を作った方がよいのではないかと
いう声がありました。

さらに、用意された施設だと自分たちの居場所だと感じにくいことがあると気づき、
「中高生自身が表現や空間作りに関わることで、より過ごしやすくなるのではないか」
と考え、「使われていない場所・施設」と「中高生の自主的な活動」をつなぐ仕組みに
ついて検討するのはどうかという提案もありました。

かんれんか
関連課からのフィードバック ◎：ぜんぶじっしかのう ○：いちぶじっしかのう ●：じっしず △：けんとうちゅう
◎：全部実施可能 ○：一部実施可能 ●：実施済み △：検討中

×：じっしふか
×：実施不可

いけんひょうめい ようし 意見表明の要旨	たんとくぶ 担当部 (たんとくか 担当課)	たいおう 対応 ほうしん 方針	せつめい りゆう 説明・理由
<p>中野区には南北それぞれに児童館などの中高生が気軽に集まれる場が必要である。特に中高生が会議や交流のできる賑やかな居場所と、勉強に集中できる静かな専用スペースの整備等を求めたい。</p>	<p>子ども教育部 (子ども・教育政策課)</p>	<p>○</p>	<p>2025年度から中高生年代向けの居場所事業を拡充し、区役所などの区有施設等を活用した居場所事業を新たに実施しました(TEEN'S CAFE:年5回)。2026年度につきましても、イベント的に実施予定です。</p> <p>また、2026年度は教育センター分室を活用した暫定的な中高生年代の居場所づくりを進めていくとともに、既存区有施設における中高生年代の利用促進について、中高生の意見を聴きながら検討を進めていきます。</p>
<p>中野区には南北それぞれに児童館などの中高生が気軽に集まれる場が必要である。特に中高生が会議や交流のできる賑やかな居場所と、勉強に集中できる静かな専用スペースの整備等を求めたい。</p>	<p>子ども教育部 (育成活動推進課)</p>	<p>◎</p>	<p>一部の児童館では、中高生の学習スペースを整備しているほか、ロビー等で交流できる児童館もあります。</p> <p>中野区の北部については、中高生機能強化型として整備を進める若宮児童館において、交流ができるロビーや集会室兼中高生室のほか、静かな環境で学習ができる部屋を整備する予定です。</p>

<p>図書館や児童館など既存施設の情報に散在しており活用しづらい。中高生のための地域の居場所をまとめた「なかの居場所マップ」を作成し、誰もがアクセスしやすい形で提供してほしい。</p>	<p>子ども教育部 (子ども・教育政策課)</p> <p>子ども教育部 (育成活動推進課)</p>	<p>◎</p> <p>中高生が安心して過ごすことができる区有施設についてまとめた「なかの居場所マップ(仮称)」については、ティーンズ会議や中高生の居場所事業の関連事業と連携し、中高生の意見を取り入れながら作成予定です。</p> <p>どのような媒体であれば中高生を含め誰もがアクセスしやすいかについて、中高生の意見を聴きながら検討を進めていきます。また、中高生年代へのアンケートを踏まえた「児童館アップデートマップ」を作成しました。音楽、運動、ゲーム、くつろぎスペースなど、どの児童館でどのような過ごし方が出来るかを掲載しています。</p>
<p>中高生が安価または無償で楽しめる施設がない。廃校や使われなくなった区有施設などで中高生が企画を行い利用することができるよう、それらをつなぐ仕組みを検討してほしい。</p>	<p>子ども教育部 (子ども・教育政策課)</p>	<p>△</p> <p>2026年度には教育センター分室を活用した暫定的な中高生年代の居場所づくりを進めていくとともに、既存区有施設における中高生年代の利用促進について、中高生の意見を聴きながら検討を進めていきます。</p> <p>廃校や現在使われていない区有施設の活用については、区有施設は区民の財産であるという前提のもと、公共性のある事業であるかどうか判断を経る必要があるため、事業内容によって関係所管課と連携をしながら個別に対応していきます。</p>

いただいたコメント

2025年中野ティーンズ会議報告会 コメントシート
※印象に残ったこと、ねざらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ（該当するものに○）

居場所(情報発信) / 居場所(アオハル) / 環境
 商店街 / まちづくり / 生徒会(いじめ)
 生徒会(生徒の声) / 公共施設 / 若者チャレンジ支援

記入者名: _____

・ティーンズ会議メンバー
 ・参加者保護者・関係者
 ・学校関係者
 ・区役所関係者
 ・地域関係者
 ・一般区民
 ・その他 ()

・課題に対して具体的な提案があのワークショップで思いついた。
 ・限られた区有施設の有効活用は、中高生優先、シニア優先、キッズ優先の優劣(共有可能な)時間の設定は提案してあげたいなと思った。
 ・区内民間施設の活用協力や区一統の活動を可能にするか？
 ・区長と区民が近くでやり取りできる仕組みを考えたかった。

2025年中野ティーンズ会議報告会 コメントシート
※印象に残ったこと、ねざらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ（該当するものに○）

居場所(情報発信) / 居場所(アオハル) / 環境
 商店街 / まちづくり / 生徒会(いじめ)
 生徒会(生徒の声) / 公共施設 / 若者チャレンジ支援

記入者名: _____

・ティーンズ会議メンバー
 ・参加者保護者・関係者
 ・学校関係者
 ・区役所関係者
 ・地域関係者(グループ)
 ・一般区民
 ・その他 ()

・居場所の居場所の処置を思いついた！！
 「住むと知ればいいところがある、って思うんだ！！」って思いました。
 私は大和町に住んでいるので大和町駅周辺に9〜10で中高生の居場所を
 作れるのがいいかなと、(に「じゃあ」と思いました)
 具体的には、大和町駅周辺の駅舎を、運営と中高生に貸せることが
 できるかなと、考えています。運営は大和町駅で、運営も中高生が
 やるのかなと、思っています。「大和町」を運営したいな。

い か ば っ す い
【以下抜粋】

- 子どもすぎず、大人でもない中高生はなかなか焦点が当たらないということにととても共感できました。
- マップも、大人が書くのではなく、中高生が作った同じ目線の中高生のための居場所マップを作成してもおもしろいと考えました。
- 次のステップとしてその場所でのルール作りまで踏み込めるとさらに良いと思います。
- 中高生の居場所は必要だと思います。「使われてない施設にはエモさがある」って、そうなんだ！気づきませんでした！
- 使われていない場所の公共利用（中高生利用）は確かにそうだと思います。中高生でも借りやすい場所・仕組み、大事だと思いました。

わかものかいぎ 若者会議メンバーからのコメント

- みずか あし はこ らいじょうしゃ ちず つく すば 와이파이
自ら足を運び、来場者と地図を作るプロセスが素晴らしかった。「Wi-Fiの
ひつようせい ちゅうこうせい してん するど かいぎじたい いぼしょ
必要性」など中高生ならではの視点が鋭い。この会議自体が「居場所」になっ
て
いると感じたので、じねんど む ひ つづ がんば
次年度に向けても引き続き頑張してほしい。また、しこうさくご
試行錯誤を
繰り返す 姿 はまさに「アオハル」そのもの。「実施は じっし むずか
難しいかもしれない。『で
も』 はいこう かつよう かんせい すば
廃校を活用したい」という、みずみずしい感性が素晴らしかった。

かんきょう 環境チャレンジ

中野区が環境に優しく住みやすいまちになるためには、どのような取組が求められるのでしょうか。「ごみ」をテーマに学びを深め、地域でアクションも行いながら検討を進めました。

メンバー

- みさき (高校3年生)
- ゆうか (高校1年生)
- ひなの (小学5年生)



チャレンジのきっかけ

航空による環境悪化や、緑地不足、ごみのポイ捨て問題など、さまざまな環境問題に関心を持つメンバーが集まりました。実際に中野駅前でごみ拾い活動に精力的に取り組んでいるメンバーがいたことから、その経験を生かしたチャレンジにしていこうと「ごみ」をテーマに取り組んでいくこととなりました。

アクションの内容と結果

時期	内容	補足
7/13	ティーンズ会議	中野区を取り巻くさまざまな分野について意見交換
7/27	ティーンズ会議	チーム決定・アクション方針決定
8/17	ティーンズ会議	中野区ごみゼロ推進課・環境課へのヒアリング ティーンズフェス・エコフェアでのアクション内容検討

		(ごみ ^{ひろ} 拾いイベント)
8/27	フィールドワーク	なかのく 中野区リサイクル展示室を訪問 ごみ ^{もんだい} 問題について ^{まな} 学ぶクイズラリーに ^{さんか} 参加
8/29	オンライン 打ち ^あ 合わせ	ティーンズフェス・エコフェアでのアクション ^{ないようけつてい} 内容決定 (ごみ ^{ひろ} 拾いイベント)
9/18	オンライン 打ち ^あ 合わせ	ティーンズフェス・エコフェアでのアクション ^{ないようさいけんとう} 内容再検討 (^{はい} 廃プラスチックのアップサイクルワークショップ)
9/21	ティーンズ ^{かいぎ} 会議	ワークショップの ^{しょうさいけんとう} 詳細検討 ^{はい} 廃プラスチックのアップサイクル ^{しきく} しおりを試作
9/25	オンライン 打ち ^あ 合わせ	ティーンズフェスまでの ^{じゅんびかくにん} 準備確認
10/19	ティーンズ ^{かいぎ} 会議	ペットボトルキャップなどの ^{はい} 廃プラスチックを ^{そざい} 素材にして しおりを ^{たいけん} つくる、アップサイクルクラフトの体験コーナーを ^{かいさい やく めいさんか} 開催 (約30名参加)
10/30	オンライン 打ち ^あ 合わせ	^{いけんひょうめい} 意見表明について ^{けんとう} 検討
11/2	ティーンズ ^{かいぎ} 会議	なかのくかんきょうか 中野区環境課へのヒアリング ^{いけんひょうめい} 意見表明について ^{けんとう} 検討、 ^{さくせい} スライド作成
11/8	エコフェア ^{しゅってん} 出展	わかもの ^{かいぎ} 若者会議と ^{れんけい} 連携し、アップサイクルクラフトの ^{たいけん} 体験コーナーを ^{かいさい やく めいさんか} 開催 (約70名参加)
11/23	^{ほうこくかい} 報告会	

チャレンジのポイント

環境チャレンジは、ティーンズ会議のワークショップ（11月2日）だけでなくエコフェア（11月8日）にも出展することができたため、地域でチャレンジする機会が2度ありました。両イベント合わせて約100名の方がアップサイクルクラフトを体験していただき、ごみ問題について考えてもらうきっかけをつくることができました。

また、環境チャレンジはメンバーの人数が少なかったものの、若者会議メンバーにも協力いただくことで、たのしいワークショップを安全・安心に運営することができました。

報告会での意見表明

環境意識の向上によって区民一人ひとりの意識や行動の変容を促せたら、緑豊かできれいな住みやすい中野になるのではと考えました。

これを実現するためにも「中野を知りつつごみを拾うスタンプラリーイベント」や「植物を植えて中野区に緑を増やすイベント」など、小中高校生の視点で「あったらよい」と思う環境イベント案を具体的に提案しました。



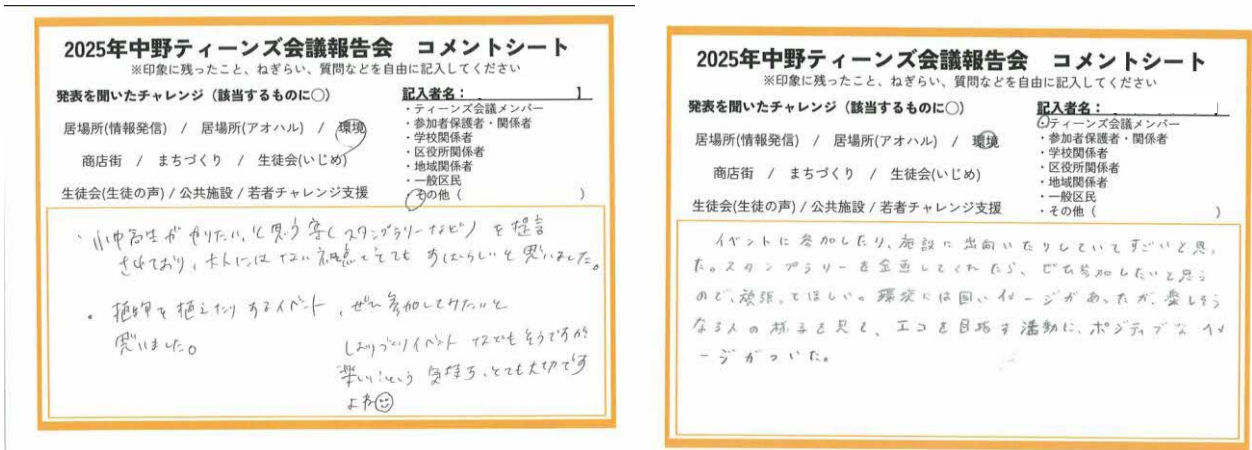
かんれんか
関連課からのフィードバック ◎：全部実施可能 ○：一部実施可能 ●：実施済み △：検討中

じっしふか
 ×実施不可

いけんひょうめい ようし 意見表明の要旨	たんとうぶ 担当部 (担当課)	たいおう 対応 ほうしん 方針	せつめい りゆう 説明・理由
<p>中野区的环境やごみに関心を持つ住民を増やすため、①地域の人と交流しながら参加できるイベントを通じて、②きれいで住みやすい中野を目指したい。</p> <p>①住民の環境意識を高め、日々の行動変容につなげることが重要である。具体的には、中野のまちを巡ってごみ拾いをしながら中野のことを知ることができるスタンプラリーや、区内にあるさまざまな施設見学を通して環境について学ぶ機会があるとよいのではないか。</p>	環境部 (環境課)	○	他のイベントの一部としての参加でしたら可能性はあります。単独のイベントとして実施する場合は、各施設や関係機関等との調整が必要となるため、個別にご相談いただければと思います。
<p>中野区的环境やごみに関心を持つ住民を増やすため、①地域の人と交流しながら参加できるイベントを通じて、②きれいで住みやすい中野を目指したい。</p> <p>①住民の環境意識を高め、日々の行動変容につなげることが重要である。具体的には、中野のまちを巡ってごみ拾いをしながら中野のことを知ることができるスタンプラリーや、区内にあるさまざまな施設見学を通して環境について学ぶ機会があるとよいのではないか。</p>	環境部 (ごみゼロ推進課)	○	出前講座等の実施により、地域の人と交流しながらごみの減量や出し方・分け方を啓発する機会を増やし、意識の醸成を図っていきます。また、ごみ減量や3Rに取り組む地域や団体のイベントを支援し、協働で取り組めます。
<p>②子ども・若者世代に環境について興味を持ってもらうことが大切であると考えます。その一環として、区役所や児童館などの区有施設に植物を植えるイベントを開催することで、植物の大切さなどを知ってもらえるのではないか。</p>	環境部 (環境課)	△	区有施設の管理はそれぞれの所管で行っているため、各所管との調整が必要となります。実施可能な施設があるか確認していきます。

いただいたコメント

ほうこくかい はっぴよう はい そぎい せいさく
 報告会の発表では、廃プラスチックを素材にアップサイクルしおりを製作したというア
 クションへの驚きの声や、提案したごみ拾い・緑を増やすイベントが実際に開催された
 さんから参加してみたいという共感の声などが見られました。



【以下抜粋】

- 環境からごみに注目し、それをただ減らすのではなく「活用」することで
 楽しみながら学べるアクションがよいと思う。
- 「ごみ拾い」を楽しく！という発想がすばらしいと思いました。
- 提言のスタンプラリー・植物を植える案はとても良いなと思いました。
- しおりづくりに私も参加させていただきました。とても楽しかったです。
 環境は1人1人の意識が大切なのだと分かりました。

わかものかいぎ 若者会議メンバーからのコメント

エコフェアに参加した際、来場者やメンバーの顔がすごく楽しそうだった。「ごみをポ
イ捨てしない」ということがまず大事なのでは。これからも“グリーン”や“エコ”というこ
とを意識して活動して行ってほしいと思う。

まちづくりチャレンジ

理想の「まちづくり」は、実際に作ってみることから。中高生世代にとって「おもろい中野」を実現するため、模型を使ったワークショップを開催し、自由にまちのアイデアを膨らませました。

メンバー

ゆい (高校2年生)

コンスタン (中学3年生)

ゆうな (中学2年生)



チャレンジのきっかけ

「もっと中野に人が集まってほしい」「再開発が進む中で、中高生世代にとっても過ごしやすいまちになってほしい」といった思いを持ったメンバーが集まりました。結果、「行きやすく、おもろいまち」を目指して話していくことになりました。

アクションの内容と結果

時期	内容	補足
7/13	ティーンズ会議	中野について普段感じている改善点などをブレインストーミング
7/27	ティーンズ会議	チーム決定・アクション方針決定
8/17	ティーンズ会議	中野駅周辺まちづくり課・交通政策課へのヒアリング 活動テーマを「行きやすく、おもろいまち」に決定

		ティーンズフェス、なかのエコフェアの2回、自主イベント を実施する方向で合意
9/17	オンライン 打ち合わせ	イベントの方向性を、段ボールを使ったワークショップに 決めて決定
9/21	ティーンズ会議	ティーンズフェス、なかのエコフェアの詳細検討 今後の流れ確認
9/28	オンライン 打ち合わせ	ティーンズフェスまでのタスク分担
10/8	かがいかつどう 課外活動	ティーンズフェスで実施するワークショップの事前準備
10/19	ティーンズ会議	段ボールを使って理想の中野の模型をつくるワークショップ を開催
11/2	ティーンズ会議	中野駅周辺まちづくり課へのヒアリング 報告会に向けた発表内容検討
11/8	エコフェア出展	若者会議と連携し、模型の展示・区民の意見聴取ブースを 出展
11/19	Zoom打ち合わせ	報告会準備
11/23	ほうこくかい 報告会	

チャレンジのポイント

当初は「まちづくり」という広い概念に対し、再開発、公園活用、イベントなど多くの意見が出ましたが、区職員へのヒアリングを通して「そこにいる『人』が大切」という考え方を学んだことで、考えがまとまりました。多くの人と一緒に、「このまちでどう過ごすか」を考えるため、段ボール模型を通じた体験型のワークショップが生まれました。

結果として小学生から大人の方々まで多くの方に模型作りやアイデア出しを楽しんでもらい、単純なアンケート調査とは異なるユニークなアクションができました。



報告会での意見表明

提案①：サンプルザを中高生と地域が活用できる

複合拠点へ

課題：サンプルザを壊すか壊さないかよりも「どう

活用するか」という点に多くの意見が集まっており、

特に中高生が気軽に立ち寄れる居場所や学習スペースが不足しているという意見が多い。



かいけつあん れきし そんちょう ちゅうこうせい いばしょ がくしゅう ていきてき
解決案：歴史を尊重しつつ、中高生の居場所や学習スペース、定期的なイベントが
かいさい ひろば そな ふくごうしせつ さいせつけい
開催できる広場などを備えた複合施設として再設計・リニューアルする。

ていあん きそん こうえん せっち
提案②：既存の公園へのバスケットゴール設置とリニューアル

かだい なかのく いじょう こうえん じっさい こうえん かしょ
課題：中野区には170以上の公園があるが、実際にバスケットゴールがある公園は4カ所
わかもの たの ば きわ すく
のみであり、若者がスポーツを楽しむ場が極めて少ない。

かいけつあん きそん こうえん ちい もり ついか たよう
解決案：既存の公園にバスケットゴールやベンチ、小さな森スペースなどを追加し、多様
ねんだい もくてき あ りよう くらかん
な年代がそれぞれの目的に合わせて利用できる空間へリニューアルする。

ていあん たせだい こうりゅう まんぞく かしょう そうしゅつ
提案③：多世代が交流・満足できる「プレイパーク（仮称）」の創出

かだい けっか おとな いこ ぼ こ ゆうえんち しげきてき
課題：アンケートの結果、大人は「憩いの場」を、子どもは「遊園地のような刺激的な
ばしょ もと けいこう せだいかん ちが
場所」を求める傾向があり、世代間のニーズに違いがあることがわかった。

かいけつあん しばふひろば しつない どうはんかのう
解決案：芝生広場、室内プレイグラウンド、ペット同伴可能なカフェ、スポーツコート、
しゅうやく こ おとな あそ どうじ たの
ドッグランなどを集約し、子どもから大人までが「まったり」も「遊び」も同時に楽しめ
だいきぼ かしょう せいび
る大規模なプレイパーク（仮称）を整備する。

かんれんか
関連課からのフィードバック ◎：ぜんぶじっしかのう 〇：いちぶじっしかのう ●：じっしず △：けんとうちゅう
◎：全部実施可能 〇：一部実施可能 ●：実施済み △：検討中

×：じっしふか
×：実施不可

いげんのようめい ようし 意見表明の要旨	たんとうぶ 担当部 たんとうか (担当課)	たいおう 対応 ほうしん 方針	せつめい りゆう 説明・理由
サンプラザについて、中高生や地域住民が使える複合施設として再設計・リニューアルしてほしい(例えば、娯楽的商業施設、中高生の居場所、学習スペース、地域防災拠点、観光拠点としての活用など)。	まちづくり推進部(中野駅周辺まちづくり課)	△	いただいたご意見については、再整備事業計画の見直しに反映し、区民の期待に応えるまちづくりを実現していきます。再整備事業計画の見直しについては、今年度末に再整備事業計画見直しの方向性を示した後、2026年度に再整備事業計画の改定を目指していく予定です。
「理想の中野」についてアンケートを実施したところ、公園にバスケットゴールなどを求める声が多かった。バスケットゴールのある区内公園は4つだけなので、既存の公園に少し手を加えリニューアルして、バスケットボールのある公園を増やしてはどうか。	都市基盤部(公園課)	●	現在、バスケットゴールは、大和公園、谷戸運動公園、上高田台公園及び南台公園の4公園に設置しているほか、令和8年3月に改修工事が完了した上鷲東公園において新たに設置しました。今後については、公園改修などの機会を捉え、設置を検討していきます。
まちづくりを契機に、芝生、遊園地、室内プレイグラウンド、ベンチ、カフェ、バスケットコート・テニスコート、壁打ち、ドッグランなどが出来るエリアを作ってはどうか。	まちづくり推進部(まちづくり計画課)	△	中野区では、地域ごとの課題や特徴に合わせて、まちづくりを進めています。ご提案いただいた施設は、行政が設置するもの、民間が設置するもの、大きなもの、小さなものなど様々あります。地域の状況やニーズを踏まえながら、行政が設置すべきものは区で検討します。

いただいたコメント

だん つか たいげん
 段ボールを使った体験ワークショップのアイデアや、ほうこくかい ば じっさい もけい て が
 報告会の場で実際の模型や手書き
 あつ つか こうかてき はっぴよう こうひよう
 で集めたアンケートを使って効果的に発表したことに好評をいただきました。

2025年中野ティーンズ会議報告会 コメントシート
※印象に残ったこと、ねざらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ（該当するものに○）

居場所(情報発信) / 居場所(アオハル) / 環境
商店街 / まちづくり / 生徒会(いじめ)
生徒会(生徒の声) / 公共施設 / 若者チャレンジ支援

記入者名： []

- ・ティーンズ会議メンバー
- ・参加者保護者・関係者
- ・学校関係者
- ・区役所関係者
- ・地域関係者
- ・一般区民
- ・その他(メンバー)

まちづくりをアートの力でなく手を動かして作るという画期的なイメージが面白いアイデアだと思いました！
スライドもおもしろい書き進めた内容をそのまま活用して？
発表のみなさんの意見があったことが嬉しかったです。

2025年中野ティーンズ会議報告会 コメントシート
※印象に残ったこと、ねざらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ（該当するものに○）

居場所(情報発信) / 居場所(アオハル) / 環境
商店街 / まちづくり / 生徒会(いじめ)
生徒会(生徒の声) / 公共施設 / 若者チャレンジ支援

記入者名： []

- ・ティーンズ会議メンバー
- ・参加者保護者・関係者
- ・学校関係者
- ・区役所関係者
- ・地域関係者
- ・一般区民
- ・その他()

“サンライズ”は区民としてどうなるのかも興味があります。
遅々として進まない言語画が氷を機械に進化させている。
バスケットボールやアスレチック 実現できたら良い中野区に
なりそうです。花塚といいます。

いかばっすい
【以下抜粋】

- 手を動かし、作ることで見えてきたことに向き合っているのがいいと思います。ワークショップで幅広い意見を得られたのがすごいです。
- 「おもしろいまち」、とてもいいなと感じました。理想のまちを考えると、大半が言葉でしか表現しないが、実際にミニチュアで「もの」として表しているのが良いと思う。
- できる・できないなど、実現可能性にとらわれず、自由に理想のまちについて考える機会や、それを目に見えるように作ったりする活動、とても素晴らしいと思いました。そういうことを一人ひとりが考えてワクワクするのが、とても大切なことだと感じます。

わかものかいぎ
若者会議メンバーからのコメント

1人の区民として「いい街」に住みたいと思っていたが、改めて「どんな街が『いい街』なのか」を考えるようになった。実際に段ボールを使い、わかりやすく形をつくり、言語化し解像度を上げるといのは、大事なプロセスだった。

商店街チャレンジ

商店街が、どの年代の人にとっても居心地よく過ごせる場所になるにはどうしたらよいかを、フィールドワークやインタビュー、ティーンズフェスでの来場者アンケートを通して、小学生の視点で考えました。

メンバー

- エイヴェリー (小学6年生)
- りんたろう (小学6年生)
- けんき (小学5年生)
- かんくん (小学4年生)



チャレンジのきっかけ

メンバーたちにとって商店街には、「お店がたくさんありたまに通る場所」というイメージがありました。しかし、もし商店街に子ども向けの場所がもっとあったら、子どもたちも「行ってみたい」「行こうかな」と思えるのではないかと考えるようになりました。

商店街にいろいろな種類のお店や場所があると、もっと楽しくなる。そんな思いから、子ども向けのスペースやもっとさまざまな機能がある商店街にしたいと考え、このチャレンジに取り組むことにしました。

アクションの内容と結果

じき 時期	ないよう 内容	ほそく 補足
7/13	ティーンズ会議	なかの 中野ブロードウェイにフィールドワークに行き、なかの 中野のまち や中野で働くおとなについて知る

7/27	ティーンズ会議 かいぎ	なかの 中野マルイにフィールドワークに行き感じてことをもと に、自分の中でやりたいアクションをイメージする じぶん なか
8/17	ティーンズ会議 かいぎ	フィールドワークの成果を中高生に発表 せいか ちゅうこうせい はっぴょう アクション内容の意見だし ないよう いけん
9/21	ティーンズ会議 かいぎ	アクション決定（チーム分け）と具体的な内容の設計 けつてい わ ぐたいてき ないよう せっけい フェスで掲示する模造紙の内容決め けいじ もぞうし ないよう ぎ
10/19	ティーンズフェス	掲示用の模造紙作成 けいじよう もぞうし さくせい ティーンズフェス来場者への説明・アンケート実施・結果 らいじようしゃ せつめい じっし けっか 集計 しゅうけい 結果を踏まえて意見だし・スライドの叩き台作成 けっか ふ いけん たた だいさくせい
11/2	ティーンズ会議 かいぎ	産業振興課へのヒアリング さんぎょうしんこうか 原稿作成・発表練習 げんこうさくせい はっぴょうれんしゅう
11/2～ 11/22	かくじはっぴょうれんしゅう 各自発表練習	自分の担当パートを事前に共有し、各自練習 じぶん たんとう じぜん きょうゆう かくじれんしゅう
11/23	ほうこくかい 報告会	

チャレンジのポイント

2回のフィールドワークや中野サンモール商店街へのインタビューを通して、商店街がどんな場所なのかイメージをふくらませることができました。また、ティーンズフェスでは来場した方にアンケートを行い、中野区の商店街にどんなことが求められているのかを知ることができました。

インタビューを通して、自分たちの好きなお店をそのまま商店街に置くことは難しいということもわかりました。そこで、商店街がもっとにぎやかで、いろいろな年代の人が

居心地よく過ごせるように、イベントを行うのはどうかと考え、アイデアを深めることができました。

報告会での意見表明

商店街に対して“リラックス”や“ワクワクすること”などを求めている人が多いことがアンケートからわかりました。

そこで、お店に来る工夫を凝らすことが必要であると意見を述べました。例えば、スタンプラリーや季節まつり、ビンゴのようなイベントを商店街で実施してほしいと発表しました。



関連課からのフィードバック ◎：全部実施可能 ○：一部実施可能 ●：実施済み △：検討中

×：実施不可

意見表明の要旨	担当部 (担当課)	たいおう 対応 ほうしん 方針	せつめい 説明・理由
<p>商店街に対してリラックスやワクワクすることなどを求めている人が多い。お客さんがお店に来る工夫を凝らすことが必要である。例えば、スタンプラリーや季節まつり、ビンゴのようなイベントを商店街でしてほしい。</p>	<p>区民部 (産業振興課)</p>	<p>●</p>	<p>商店街では、スタンプラリーイベントや、季節にあったイベント(夏まつりをはじめハロウィンやクリスマスなど)を開催しています。区ではそのような商店街に対して、専門家を派遣したり補助金を出すなどして支援しています。今回みなさまからいただいたご意見を商店街の人たちにお伝えし、そうしたイベントが増えるよう支援していきます。</p>

わかものかいぎ
若者会議メンバーからのコメント

わかものかいぎ ほうこくかい に みたいょうなことを ていげん しようとしていたため べんきょう 勉強になった。イベント等のアイデアもよかった。これを機会に中野区や商店街の組合に話してみてもどうか。

理想の公共施設チャレンジ

中野区の公共施設に感じている疑問や、改善してほしい点を、アンケートで集め、中野区にあってほしい「理想の公共施設」はどのような施設かを考えました。

メンバー

- あかり (小学5年生)
- たまき (小学5年生)
- こうき (小学5年生)
- なぎ (小学4年生)
- まさき (小学4年生)
- ほか 他1名



チャレンジのきっかけ

中野に対する自分なりの問題点をもとにテーマを考えていく中で、図書館の使い方や、「自然豊かな遊び場がほしい」「自由に外遊びできる場所がほしい」といった居場所にまつわる意見が多く出ました。

そこから、それらの意見がすべて反映されるような、新しい「理想の公共施設」を考えていくことになりました。

アクションの内容と結果

時期	内容	補足
7/13	ティーンズ会議	中野ブロードウェイにフィールドワークに行き、中野のまちや中野で働く大人について知る

7/27	ティーンズ会議 かいぎ	なかの 中野マルイにフィールドワークに行き感じてことをもと に、自分の中でやりたいアクションをイメージする
8/17	ティーンズ会議 かいぎ	せいか ちゅうこうせい はっぴょう フィールドワークの成果を中高生に発表 ないよう いけん アクション内容の意見だし
9/21	ティーンズ会議 かいぎ	けつてい アクション決定（チーム分け）と具体的な内容の設計 くたいてき ないよう せつけい
10/19	ティーンズ会議 かいぎ	らいじょうしゃ せつめい じっし けつか ティーンズフェス来場者への説明・アンケート実施・結果 しゅうけい 集計 けつか ふ いけん さくせい 結果を踏まえて意見だし・スライド作成
11/2	ティーンズ会議 かいぎ	こ きょういくせいさくか 子ども・教育政策課にヒアリング げんこうさくせい はっぴょうれんしゅう 原稿作成・発表練習
11/2～ 11/22	かくじ はっぴょうれんしゅう 各自発表練習	じぶん たんどう じぜん きょうゆう かくじれんしゅう 自分の担当パートを事前に共有し、各自練習
11/23	ほうこくかい 報告会	

チャレンジのポイント

当初は、図書館の改善や多世代の居場所づくり、自然とのふれあいなど、メンバーそれぞれが抱く目的が異なり、チームとしての方向性を絞る難しさがありました。しかし、「理想の公共施設」という大きなテーマを据えたことで、各自の多様な視点を活かしながらも、一つの目標に向けて足並みを揃えることができました。

活動中に行ったアンケートを通じて、現状の施設に対して疑問や改善の必要性を感じている区民の方が多いことを肌で感じました。こうした「地域の本音」に直接触れたことが、自分たちのプロジェクトを最後までやり遂げるための大きな後押しとなりました。

結果として、個人の枠を超えた「区民のリアルな理想」を、一つの提言として区へ届けることができました。

報告会での意見表明

アンケートを通して、今の中野の公共施設に満足していない区民が多い現状を知り、一人ひとりの「こんな場所があったらもっと行きたい」という願いを形にできれば、誰もが自分らしく過ごせる魅力的な街になると考えました。

これを実現するためにも、多くの要望があった

「夜間まで利用できる静かな学習・読書スペース」や「学生も気軽に使えるきれいなスポーツ施設」など、子どもから大人まで多世代が心地よく活用できる理想の公共施設案を具体的に提案しました。



関連課からのフィードバック◎：全部実施可能 ○：一部実施可能 ●：実施済み △：検討中

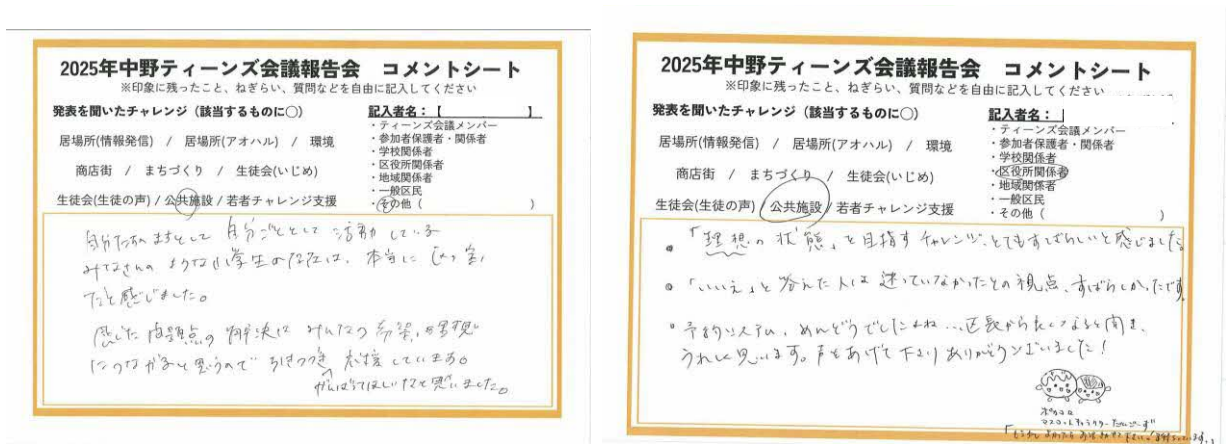
×：実施不可

意見表明の要旨	担当部 担当課	対応 方針	説明・理由
<p>理想の公共施設についてアンケート調査を実施したところ、大人も学生も今の公共施設に満足していない人の方が多いということがわかった。特に、休息スペースや運動スペースが欲しいという声が多かった。意見が多かったのは、開館時間の延長(夜間の利用)、簡単な予約システムがあること、読書・学習のための静かで落ち着く空間があること、気軽に利用できるスポーツ施設や体験プログラムがあること、等であった。そういった施設や仕組みを公共施設に導入してほしい。</p>	<p>子ども教育部 (子ども・教育政策課)</p>	<p>○</p>	<p>例えば、区立中野東図書館では、こどもラウンジ、ティーンズルーム、コワーキングコーナーなどを設け、21時まで開館しており、子どもや地域の方が自由に過ごすことのできる居場所として親しまれています。</p> <p>また、一部の区有施設には子どもの学習スペースを設置し、静かな環境の中で子どもたちが集中して学習できるよう整備しています。</p>

		<p>さらに、新たな施設予約システムを導入し、2026年度5月利用分からの施設予約については、オンライン上で完結できるようリニューアルするなど、区として取組を進めているところです。</p> <p>今後についても、公共施設にどのような機能を導入するかについては、区民の方のニーズを聴きながら、担当所管課にて検討を進めていきます。</p>
--	--	---

いただいたコメント

自分たちの理想だけでなく、幅広い年代の使いやすさを考えた姿勢や、予約システムなどの具体的な問題点に声を上げたアクションに対し、多くの共感と応援のコメントをいただきました。



いかばっすい 【以下抜粋】

- 自分ごとにして活動しているみなさんのような小学生の存在は、本当に区之宝だと感じました。感じた問題点の解決はみんなの希望・理想につながるとおもうので、引き続き応援しています。がんばってほしいなと思いました。

- たの 楽しそうで何よりでした！^{なに} 公共施設^{こうきょうしせつ}は、これからたくさん^{なかの}中野でつくられます。みんなの意見^{いけん}もぜひ^{こんご}今後よせてください。
- すなお 素直な意見^{いけん}が聞^きけて、知^しれてよかつた。都市部^{としぶ}の子ども^こは居場所^{いばしょ}がないのだと改^{あらた}めて感^{かん}じました。
- りそ 理想^{りそ}の状^{じょう}態^{たい}を自^め指^ぎすチャレンジ、とて^{かん}もすばらしいと感^{かん}じました。

わかものかいぎ 若者会議メンバーからのコメント

としょかん 図書館^{としょかん}のべんきょう 勉強^{べんきょう}スペースの^{かだい}課題^{かだい}や、^{しぜん}自然^{しぜん}の^{すく}少な^{すく}さについては^{きょうかん}共感^{きょうかん}する。アンケートの
けっか 結果^{けっか}を聞^きいていて、「^{まよ}どちら^{まよ}でも^{まよ}ない」「^{まよ}迷^{まよ}っている」と^{かいとう}回^{かいとう}答^{かいとう}した^{ひと}人^{ひと}は、「^{まよ}迷^{まよ}いながら^か書^か
いている」というのは^{してん}よい視^{してん}点^{してん}だつた。

せいとかい 生徒会チャレンジ

メンバーたちは、子どもが困っている時、相談に行くこと自体が難しく、苦しさを一人で抱え込んでしまう子どもも少なくないと考えました。そこで、子どもからSOSを出すことや、相談に行かなくても、大人側から気づいて拾い上げるような対策を自指し、どうすれば相談しやすくなるか、どんな制度があれば良いのか検討を重ねてきました。

また、子どもが気軽に区に対して意見を言え、それが反映されなくとも何らかのアクションは返ってくるような、子どもの意見が通る中野区を自指しました。

メンバー

くりつなかのちゅうがっこう 区立中野中学校	2	名
くりつだいにちゅうがっこう 区立第二中学校	1	名
くりつだいななちゅうがっこう 区立第七中学校	2	名
くりつなかのひがしちゅうがっこう 区立中野東中学校	1	名
くりつきたなかのちゅうがっこう 区立北中野中学校	8	名



チャレンジのきっかけ

区立中学校5校から代表生徒が参加することで立ち上がりました。メンバーの経験から、より積極的な対策や対応を求めて、チャレンジ内容が決まりました。子どもから相談を受けてはじめて動き出すのではなく、日常の様子やちょっとしたサインに大人や先生側から気づき対応してもらえるような状態を自指し、アクションに取り組んでいきました。

アクションの内容と結果

時期	内容	補足
7/13	ティーンズ会議	各学校からきた代表生徒で、各学校の生徒会の取り組みや、ティーンズ会議でやってみたいことを共有
7/27	テーマ検討	複数のメンバーの経験からテーマ決定
8/17	ティーンズ会議	教育委員会事務局指導室へのヒアリングを実施 中野区での対策や対応について現行の取り組みを聞き、今後の活動の方向性を検討
9/21	ティーンズ会議	ティーンズフェスに向けて、相談に行くことの大切さについて検討を重ね、ワークショップを設計
10/19	ティーンズ会議	小学生向け／中高生以上向け、それぞれに問題や相談にいくことの大切さについて考えるワークショップを実施 相談にいきやすい環境について意見交換
11/2	ティーンズ会議	教育委員会事務局指導室、子ども・教育政策課、中野駅周辺まちづくり課へのヒアリング これまでの取り組みを振り返り、提言内容を検討 報告会に向けたスライド作成や発表準備
11/23	報告会	

チャレンジのポイント

ティーンズフェスでは、相談に行くことの大切さを実感してもらい、どうすれば相談に行きやすくなるのかを考えるワークショップを行いました。様々な議論の中で、小学生向けと中高生以上向けの2つに分けて、それぞれ工夫したワークショップを行うことにしました。



また、日常の生徒会活動で感じている「生徒の声が届きづらい」という視点をきっかけに、ティーンズフェスでは「子どもの意見が届きやすいまち」を目指して、まずは自分たちで小中高生の意見を集め、それを元に教育委員会事務局指導室の職員と対話をしました。子どもの意見を気軽に区に言えて、それを反映するのが難しくとも、何らかの返事やリアクションが返ってくるようになってほしいと、改めて理想状態を確認し、提言に繋げていきました。

意見を集める際には、小学生にはよりわかりやすく伝わるように紙芝居を使い、中高生や大人にはより高度に具体的な事例を紹介し、ディスカッションを行いました。

報告会での意見表明

子どもが一人で悩みを抱え込まず、早い段階で解決につながれたら、学校はもっと安心して過ごせる場所になるのではないかと考えました。そのために、休み時間や放課後に気軽に



相談できる相談員の配置や、オンラインで文面による相談ができる仕組みづくり、相談員から積極的に声をかける取り組みなど相談しやすい環境づくりを提案しました。

また、^{こま}困りごとの^{しよきだんかい}初期段階での^{たいおう}対応の^{たいせつ}大切さを^{きょうゆう}共有するため、^{じゅうだいじれい}重大事例に限らず、^{そうき}早期に^{かいけつ}解決した^{じれい}事例を^{がっこうかん}まとめ、^{きょうゆう}学校間で^{もと}共有することもあわせて^{もと}求めました。

さらに、^こ子どもが^{いけん}意見を^い言いやすい^{かんきょう}環境をつくるため、^{なかのくぼん}中野区版「^{めやすばこ}Web目安箱」の^{どうにゆう}導入と^{たいわきかい}対話^{そうしゆつ}機会の^{がたいけんとうこう}創出や^{SNS}SNS型^{いけん}意見^{たうごう}投稿^{ぷらうつおーむ}プラットフォーム「^{なかのすたぐらむ}なかのすたぐらむ^{かしよう}（^{そうせつ}仮称）」の^だ創設という^だアイデアも^だ出しました。

関連課からのフィードバック ◎：^{ぜんぶじっしかのう}全部実施可能 ○：^{いちぶじっしかのう}一部実施可能 ●：^{じっしず}実施済み △：^{けんとうちゅう}検討中

×：^{じっしふか}実施不可

^{いけんひょうめい} 意見 ^{ようし} 表明の ^{ようし} 要旨	^{たんとくぶ} 担当 ^{たんとくか} 部 (^{たんとくか} 担当課)	^{たいおう} 対応 ^{ほうしん} 方針	^{せつめい} 説明・ ^{りゆう} 理由
<p>以下三つの具体的な政策提言を通じて、いじめの初期段階での早期解決を目指してほしい。</p> <p>①より相談しやすい形式の導入を検討してほしい。 (例:学校の休み時間や放課後などに気軽に相談できる相談員の設置などの対面方式やオンラインなどで文面で相談できる仕組み)</p>	<p>教育委員会事務局 (指導室)</p>	<p>○</p>	<p>各小・中学校に東京都のスクールカウンセラーに加えて、中野区が採用したスクールカウンセラーやこころの教室相談員を導入しており、休み時間や放課後にも相談しやすい体制を整えています。また、中学生についてはSNSで匿名で相談できる体制を整えています。全校がSOSの出し方に関する教育も行っていて、相談することの大切さについても教えています。今後も子どもたちが相談しやすい体制を工夫していきます。</p>
<p>②相談員からの積極的な関わりがあるとよいのではないかと。 (例:アプリを活用して声をかける、毎日学校に常駐する、限られた人しかみないアンケートの実施等によって、相談者が委縮せず、リスクなく話すことができる環境づくり)</p>	<p>教育委員会事務局 (指導室)</p>	<p>○</p>	<p>都、区のスクールカウンセラーやこころの教室相談員の配置によってほぼ毎日、学校に相談員が配置されています。また、多くの学校で生活アンケートを一人1台端末などを活用して定期的に実施していじめの早期発見・対応に取り組むなど、相談しやすい環境づくりに取り組んだり、教職員研修で好事例を共有したりしています。</p>

			<p>今後は、相談員からどのようなアプローチができるか考えていきます。</p>
<p>③いじめの初期段階で対応し、早期解決の重要性と解決策を考えることができるように、重大事例に限定せず、スムーズに解決した事例や大ごとにならずに解決した事例を、報告書にまとめ、共有してほしい。</p>	<p>教育委員会事務局 (指導室)</p>	○	<p>各学校が普段の様子やアンケート等でいじめの早期発見に取り組んでいます。いじめに該当すると思う事例に気付いた場合には、初期段階で先生方で相談し、積極的にいじめと認知して早期対応を行っています。</p> <p>また、各学校がすべての事例を記録して、まとめたものを教育委員会に報告しています。</p> <p>重大事例に限定せず、スムーズに解決した事例や大事にならずに解決した事例を教員の研修会を通じて共有していくようにします。</p>
<p>学校では、より生徒の意見を吸い上げるため、目安箱を導入している学校もある。中野区に対し、子どもが気軽に意見でき、中野区からもリアクションがもらえる仕組みづくりが重要である。</p> <p>①Web上の目安箱として「なかのすたぐらむ」(仮称)を設け、好きな時に意見を投稿でき、写真・イラスト付き投稿やリアクション機能で生徒が参加しやすい場をつくり、登下校の安全に関することや施設についての要請、地域のイベントに関することなどを発信する仕組みを導入してはどうか。</p> <p>また、なかのすたぐらむ(仮称)での投稿について、関係者からのコメントやリアクションがあるとよい。</p>	<p>教育委員会事務局 (指導室)</p>	×	<p>各学校では生徒の意見を生かした「子ども主体の教育」を行っており、生徒会が中心となったり、Googleフォームや目安箱などを活用したり様々な場面で子どもの意見を聞きながら、教育活動を進めています。</p> <p>また、指導室の取組については中野区のHP等も活用して積極的に発信していきます。</p>

<p>学校では、より生徒の意見を吸い上げるため、目安箱を導入している学校もある。中野区に対し、子どもが気軽に意見でき、中野区からもリアクションがもらえる仕組みづくりが重要である。</p> <p>①Web上の目安箱として「なかのすたぐらむ」(仮称)を設け、好きな時に意見を投稿でき、写真・イラスト付き投稿やリアクション機能で生徒が参加しやすい場をつくり、登下校の安全に関することや施設についての要請、地域のイベントに関することなどを発信する仕組みを導入してはどうか。</p> <p>また、なかのすたぐらむ(仮称)での投稿について、関係者からのコメントやリアクションがあるとよい。</p>	<p>教育委員会事務局 (子ども・教育政策課)</p>	<p>△</p> <p>区は令和4年に「中野区子どもの権利に関する条例」を制定し、子どもの意見表明・参加の機会確保を進めています。</p> <p>子どもの意見表明の機会として、ティーンズ会議や子ども相談室ワークショップを実施するだけでなく、中野区基本計画や環境基本計画など、各種行政計画の策定時に子どもへの意見聴取を実施してきました。</p> <p>常時意見を投稿できるSNSなどの仕組みを導入する予定は現時点ではありませんが、2026年度以降も、計画策定時の意見聴取を継続するとともに、いただいた意見も踏まえ、Web上で子どもの意見募集のためのフォームを用意する等、工夫していきます。また、計画策定時にいただいた意見に対しては、何を反映したのかが分かる子ども向けの説明資料を用意するなど、区からのフィードバックを行います。</p>
<p>学校では、より生徒の意見を吸い上げるため、目安箱を導入している学校もある。中野区に対し、子どもが気軽に意見でき、中野区からもリアクションがもらえる仕組みづくりが重要である。</p> <p>①Web上の目安箱として「なかのすたぐらむ」(仮称)を設け、好きな時に意見を投稿でき、写真・イラスト付き投稿やリアクション機能で広く若者が参加しやすい場をつくり、生徒の登下校の安全に関することや施設についての要請、地域のイベントに関することなどを発信する仕組みを導入してはどうか。</p> <p>また、なかのすたぐらむ(仮称)での投稿について、関係者からのコメントやリアクションがあるとよい。</p>	<p>企画部(広聴・広報課)</p>	<p>●</p> <p>現在、中野区では、区のホームページ上に「区民の声」を設けているほか、LINEを通じていつでも区政に関する通報やご意見をお寄せいただける仕組みがあります。これらは年齢制限がなく、子どもたちにもご利用いただけるものであり、投稿者のご希望に応じて区からの回答も行っております。今後は、こうした意見投稿の方法について、子どもたちへも学校等を通じて積極的に周知を図る等、誰もが使いやすい形へと改善できるように進めていきます。</p>

<p>②区長を学校に招いた対話やワークショップの開催を通して生徒が直接意見を伝えられる機会も広げるべきである。</p>	<p>企画部(広聴・広報課)</p>	<p>中野区では、年に数回、各小中学校を対象に区長が訪問し、子どもたちと直接対話を行う「タウンミーティング」を実施しております。こうした機会を通じて、子どもたちの声を直接受け止め、区政に活かすことを大切にしています。今回いただいたご意見を踏まえ、今後はタウンミーティングの回数や内容の充実についても検討し、より多くの子どもたちが意見を伝えられるような環境づくりに努めていきます。</p>
---	--------------------	---

いただいたコメント

相談しやすい環境・制度を整えるというテーマに、とても大切なことだという意見が集まりました。またオンラインでの相談ツールや積極的な相談員によるアプローチなど、相談室の職員の方をはじめ、多くの方から共感の声をいただきました。

2025年中野ティーンズ会議報告会 コメントシート
※印象に残ったこと、ねざらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ (該当するものに○) 記入者名: 上

居場所(情報発信) / 居場所(アオハル) / 環境 ・ティーンズ会議メンバー
商店街 / まちづくり / 生徒会(いじめ) ・参加者保護者・関係者
生徒会(生徒の声) / 公共施設 / 若者チャレンジ支援 ・学校関係者
 ・区役所関係者
 ・地域関係者
 ・一般区民
 ・その他(子ども議定書)

いじめを相談し新しい方法の提案に至るまでのリサーチ、アクションは良い取り組みでした。また、いじめを相談する子が苦痛を申し出るケースから発生しているのが気になります。法的な対策では本人の苦痛が前提となります。一方で、7人のみでは無視されるいじめを申し出ても本人が苦痛を訴えられず、7人全員が当事者となります。

2025年中野ティーンズ会議報告会 コメントシート
※印象に残ったこと、ねざらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ (該当するものに○) 記入者名: 上

居場所(情報発信) / 居場所(アオハル) / 環境 ・ティーンズ会議メンバー
商店街 / まちづくり / 生徒会(いじめ) ・参加者保護者・関係者
生徒会(生徒の声) / 公共施設 / 若者チャレンジ支援 ・学校関係者
 ・区役所関係者
 ・地域関係者
 ・一般区民
 ・その他(子ども議定書)

「子どもの声」の開設提案はとても興味深いものでした。子ども意識の権利保障として良い提案だと思います。以前も書いた前提ですが、意見は区役所・若者委員会以外の他人も見られるので、投稿をためて提案をしたいと思います。

【以下抜粋】

- 提言された3つのカテゴリーも、大人としてもみなさんの声をききたい、考えを知りたいことばかりであり、win-winになるのではと感じました。
- 子どもの意見表明の権利保障として良い提案だと思います。
- このような形で、ある意見を見た人が、さらにそこから気づきを得る、さらにアイデアが広がる、深まる可能性があると感じました。
- 学校の相談員にアプリで相談するのはとても良いです。「先生に言えない」はよくあります。大賛成です。
- 大人・中高生と小学生に分け、対象に合わせたワークの実施から得られた知見には説得力がありました。

若者会議メンバーからのコメント

中学生時代、生徒会に所属していたので、非常に親近感を持ちながら話を聞いた。チームともすごく主体的に活動していると感じた。例えば、ドイツやヨーロッパでは、生徒会の学生・教員・校長などが同じ立場で議論をしている。今回の発表で、そういった「本質的な生徒会」について実感できた。

わかもの 若者チャレンジ支援

きょういく きてん じゅうみん じ ち さいこうちく ちゅうこうせいしてん かんが
教育を起点にした住民自治の再構築について、中高生視点で考えました。

メンバー

あゆな (こうこう ねんせい)
(高校3年生)



チャレンジ参加のきっかけ

「このまち（中野）にずっと住み続けたい」という思いがある一方で、将来を考えたときに「災害が起きたらどうなるんだろう」という不安も抱えているため。

チャレンジのポイント

中野区の町会や自治会活動に関する報告書や論文を読み解き、「行政がなんとかしてくれる」という意識が強く住民の主体的な参加が低下していることや、地域防災や町会活動が高齢者に大きく依存しており、若者や親世代が参加するには壁（心理的・物理的なハードル）があることなどが住民自治を妨げる課題であると整理しました。

報告会での意見表明

中野区の「大学や専門学校が多い」という特徴を活かし、若者が学びを通じて地域とつながることのできる「防災インターンシップ」、



かんれんか
関連課からのフィードバック ◎：全部実施可能 ○：一部実施可能 ●：実施済み △：検討中

×：実施不可

いけんひょうめい ようし 意見表明の要旨	たんとくぶ 担当部 (担当課)	たいおう 対応 ほうしん 方針	せつめい りゆう 説明・理由
<p>①中野に多く関わっている大学生世代・若者世代が地域防災サポーターとして登録することによって、防災インターンシップという役割のもとで継続的に地域・大学・行政が関わり続けることができる仕組みを作ってはどうか。</p>	<p>総務部(防災危機管理課)</p>	<p>○</p>	<p>地域においては町会が中心となった「防災会」が定期的な防災訓練を行っており、また、総合防災訓練などの機会を捉え、地元中学校生徒から防災青年リーダーを選出し、継続的な防災訓練や防災座学を通じ、若い世代の地域防災力の向上を図ってきたところです。</p> <p>また中野駅周辺にある大学や希望する学校での防災訓練等実施により、連携も生まれており、今後継続した取組を行っていくとともに、防災における若い世代との関係性をより周知・広報していくことが必要であると認識しており、これまでの取組をより強化していきたいと考えています。</p>
<p>②防災訓練等に参加することを通じて、地域貢献活動をポイント制(ナカパイポイントなどの活用)にする仕組みをつくってはどうか。</p>	<p>総務部(防災危機管理課)</p>	<p>○</p>	<p>中野区では約8割の世帯が集合住宅に居住しており、災害時における共助体制の構築や備蓄の推進が求められる一方で、集合住宅居住者は防災訓練の実施件数及び参加者数は少ない状況にあるため、コミュニティポイントを活用し、訓練への参加を促進する取組を、2026年度から新たに実施することを検討しています。</p>

<p>②防災訓練等に参加することを通じて、地域貢献活動をポイント制(ナカペイポイントなどの活用)にする仕組みをつくってはどうか。</p>	<p>地域支えあい推進部(地域活動推進課)</p>	<p>○</p>	<p>町会・自治会活動参加者へのナカペイポイント付与などの参加促進につながる取組が増えていくように、公益活動推進助成金による支援を強化します。</p>
<p>③中野共助プラットフォームをつくり、災害時の避難所情報や支援状況、安否確認など容易に行うことができるようにしてはどうか。</p>	<p>総務部(防災危機管理課)</p>	<p>○</p>	<p>中野区の避難所運営は、地域住民が主体的に開設・運営を担う体制を基本としています。そのため、災害発生時には、誰もが避難所を開設できるような環境を平時から整備しておく必要があり、災害時に必要な手順や情報を容易に確認できる仕組みの構築が地域からも求められています。今後の展開として、「避難所開設アプリ」等の導入に向けて、訓練を通じて実証実験を実施し、運用上の課題や改善点の整理を行います。併せて、受付機能や避難所運営マニュアルなどの要素をアプリに組み込むことにより、避難所の開設・運営に係るコンテンツの充実と機能強化を図り、より実効性の高い避難所運営体制の構築を目指す中で、幅広い世代や多様な方々にも日頃の備えの重要性について理解が深まるよう努めていきます。</p>
<p>③中野共助プラットフォームをつくり、災害時の避難所情報や支援状況、安否確認など容易に行うことができるようにしてはどうか。</p>	<p>地域支えあい推進部(地域活動推進課)</p>	<p>△</p>	<p>災害時の安否確認については、災害対策基本法に基づく「避難行動要支援者名簿」を活用して、防災会、町会等と連携し、避難行動要支援者の安否確認及び避難支援を実施します。その中で、対象者の安否確認などの情報をより速やかに把握することができるよう、オンラインツールの導入を検討しています。</p>

いただいたコメント

2025年中野ティーンズ会議報告会 コメントシート
※印象に残ったこと、ねざらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ (該当するものに○) 記入者名: []

居場所(情報発信) / 居場所(アオハル) / 環境
商店街 / まちづくり / 生徒会(いじめ)
生徒会(生徒の声) / 公共施設 / 若者チャレンジ支援

○ティーンズ会議メンバー
・参加者保護者・関係者
・学校関係者
・区役所関係者
・地域関係者
・一般区民
・その他()

「隣人が知らない」はどのくらいかと思いた。私も地域交流してない35の一人なので、早稲田はいい。生活が便利に変わって、地域交流が深くなるのはいいが、おもしろいことでもありますが、それとあわせてほしいと思います。意見をかりやすく、きれいなスタイルで書いてほしいです。ありがとうございます。

2025年中野ティーンズ会議報告会 コメントシート
※印象に残ったこと、ねざらい、質問などを自由に記入してください

発表を聞いたチャレンジ (該当するものに○) 記入者名: []

居場所(情報発信) / 居場所(アオハル) / 環境
商店街 / まちづくり / 生徒会(いじめ)
生徒会(生徒の声) / 公共施設 / 若者チャレンジ支援

○ティーンズ会議メンバー
・参加者保護者・関係者
・学校関係者
・区役所関係者
・地域関係者
・一般区民
・その他()

素晴らしい視点での提案だと思いた。
若い人たちが地域のことをよく知って、積極的に参加してほしい。
2025年発想の人をコミュニティや、町内会に呼び寄りたいと思いた。

い か ばっすい 【以下抜粋】

- 「共感の連鎖による自治」という視点、とても素晴らしいと感じました。社会が抱えるさまざまな課題へのアプローチもできるような視点であると思います。
- 対処療法的な今の対策に対して本質をとらえ、体系的な解決策を示しているところが素晴らしいなと思いました！
- 年代に合わせた参加の仕方、巻き込み方を学・官・産で協働して考えていけると良いのでは、と思いました。
- 行政に依存するのではなく、町民主体の自治は、今後ますます重要なポイントになっていくと思います。そこにテーマを設定し、提言されていてとても素晴らしいと感じました。

わかものかいぎ 若者会議メンバーからのコメント

課題について自分ごと化していることや、課題を実際の報告書から見出していることがよいと思った。また、課題解決のために「まず参加してもらおう」と「継続してもらおう」手法に構造化していることがよいと思った。課題や手法を図で示せるとより理解できそうだと感じた。学生といっても様々な年代がいるので、「どのようにして自分ごと化していけるか」を考えるとよりよくなるのでは。

③ 寄せられた感想

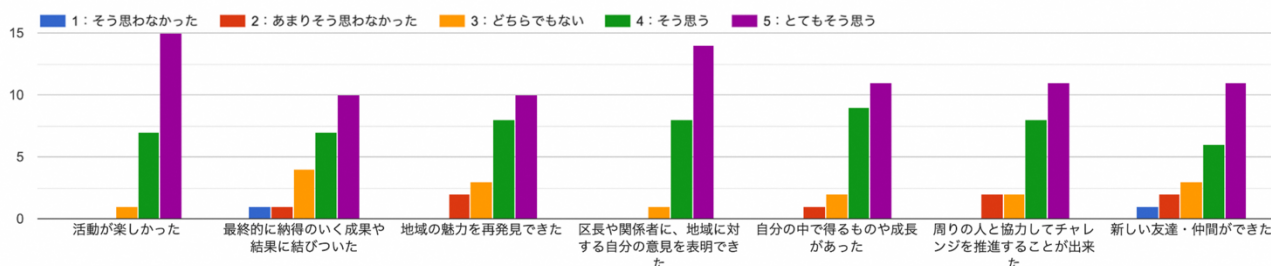
プログラムを終え、参加した小中高生たちはワークシートを活用したふりかえりや、プログラム全体に対するアンケートに臨みました。ここでは、寄せられた回答をもとに、2025年度のティーンズ会議に対する感想や評価を紹介します。

参加者アンケート

ティーンズ会議全体に対する平均満足度：9.00/10

※学校経由で応募した生徒会メンバーを除き、区に申し込みを行ったティーンズ会議メンバー24名の
平均値

ティーンズ会議に対する気持ちを教えてください



日常生活で気になっていることや、活動を通じて感じたこと・考えたことを、アクションを経てメンターや区長に直接伝えることができた点について、多くの肯定的な意見が寄せられました。

【自分の思いを伝えられたことへの感想】

- 意見が言えて、聞いてもらったことは楽しかった。
- 自分の意見を形にすることができ、とても楽しく活動することができた。

- ・がんばれば、がんばる分だけ伝えることが楽しくなった。
- ・想像を超えていて楽しかったし、ビックリした。
- ・緊張したけど、色々な人にお褒めの言葉をいただけて嬉しかった。

【交流や対話に関する感想】

- ・いろいろな人と関わって楽しかったし、他者との対話で新たな発見や気づきがありました。
- ・異なる視点の意見を交換できて楽しかった。
- ・小学生や、中学生の意見を聞いたのが楽しかった。
- ・自分の意見が伝えやすい雰囲気だった。
- ・活動は大変だったけど、みんなで色々なことができてとても楽しかったです。
- ・メンターが、自分が困っているときに手助けしてくれたり、話がおもしろかった。
- ・いろんな人との交流でたくさん意見などが聞いていい経験になった。
- ・様々な人々と交流することができて、視野が広がった。
- ・初めて会う人としゃべるのが楽しかった。

【中野のまちへの意識の変化について】

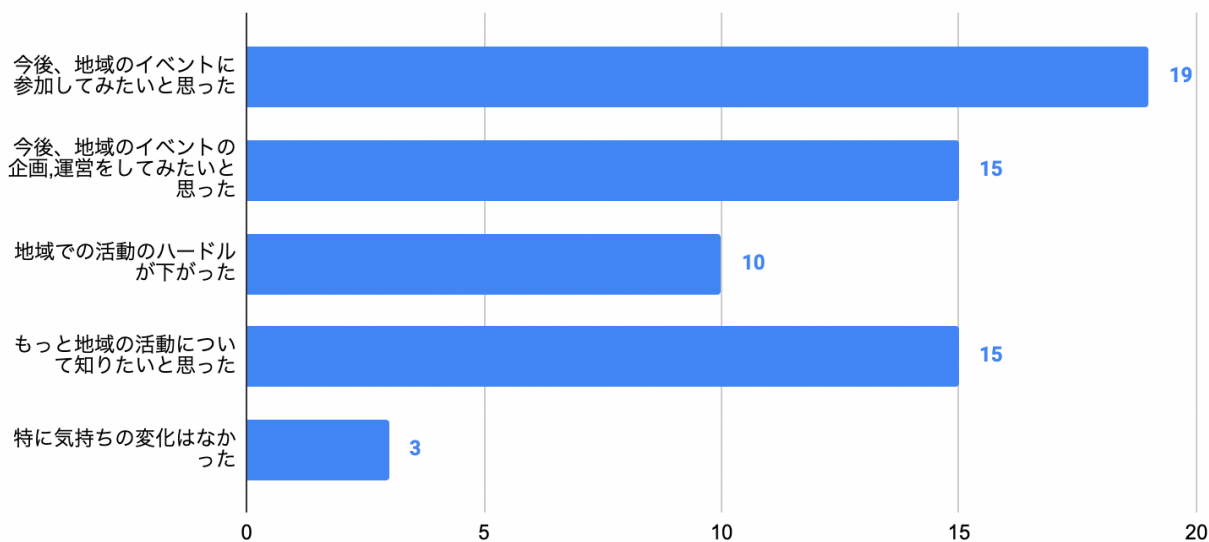
- ・中野について知ることができた。
- ・フィールドワークでいろいろなことができてうれしかった。
- ・中野区民ではないけれど、地域をよりよくできてよかった。
- ・今回毎月活動してみて、もっと地域を知りたいと思うことができて、もっと楽しくなった。
- ・中野の魅力を再発見できたとともに、新たなことに挑戦できた。

一方、アクションを行う上での制限があると感じた、提案に対するフィードバックが期待と異なると感じたという声も寄せられました。これらの意見を真摯に受け止め、小

中高生の思いがより反映され、参加者が「自分たちの手で社会が変わる」と実感できる運営を目指し、改善を続けてまいります。

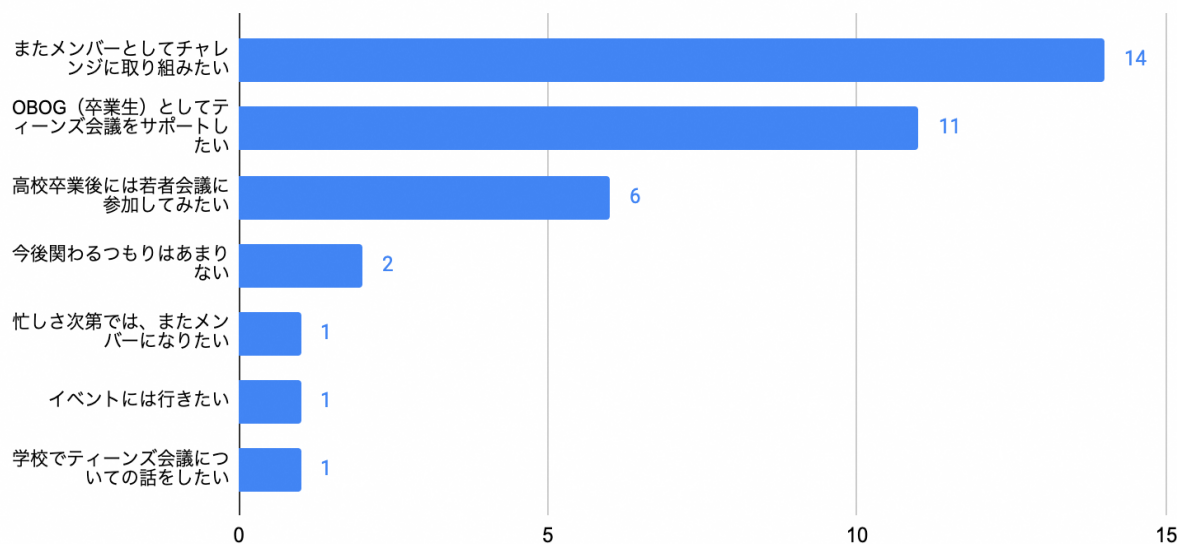
その他、項目ごとのアンケート結果の概要は以下のようになりました。

活動を通して、地域でのイベントや活動などへの気持ちの変化はありましたか？(複数回答可)



(件)

次年度以降、どのようにティーンズ会議に関わりたいと思いますか？(複数選択可)



(件)

さんかしや 参加者ワークシート

ほうこくかいご おこな ふ かえ さんか やくよんかげつ かつどう
報告会后に行った振り返りワークでは、参加したメンバーが約4ヶ月の活動におけるそ
れぞれのまな へんか げんごか
学びや変化を言語化しました。

思い出してみよう！

①ティーンズ会議に参加した理由、きっかけはなに？
昨年参加して、充実した時間を過ごせたと共に達成感があったから

②居場所 チャレンジを選んだ理由はなに？
中野区向の居場所が少なくて困っているのが、
自らこの課題を解決しようと思ったから。

考えてみよう！

この4ヶ月間で、

<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと ・手応えを感じたこと <p>ティーンズフェスで沢山の人の意見がもたらされたこと。 居場所マップについて区の方から印象がよくなりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・難しかったこと ・うまくいかなかったこと <p>同じチームでも個人個人の思いは全然違う →どの方か一人一人の思いを大切にしながら一つのチームとして動いていくのが難しかった。</p>
---	--

大人に考えや思いを伝えてみて感じたことは？

私たちの意見を真摯に受け取ってくれたので嬉しかった。
理想を伝えるだけでいい、
「こうやってほしい」→そのためにこんなことをしてみたい → こんは意見があった！
→ 行動に力をかけてほしい」という伝え方が大切だなと思った。

チームでチャレンジに取り組んでみて、どうだった？

フェスの標識紙制作やスライド作りなどは一人で難しいこともチームのメンバーがいたから完成させることができて、「チーム」の大切さを感じた。

思い出してみよう！

①ティーンズ会議に参加した理由、きっかけはなに？
4ヶ月読んで、（パ）と見て興味があったから参加した。

②生徒会 チャレンジを選んだ理由はなに？
生徒会として活動してみたいから

考えてみよう！

この4ヶ月間で、

<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと ・手応えを感じたこと <p>・ティーンズフェスに向けて生徒会チーム4人でまとめたやり合わせのこと。 ・今日のためにいろいろな人に意見を求めたり、スライドをまとめた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・難しかったこと ・うまくいかなかったこと <p>・スライドをどうせたら分けやすく伝えられるかを考えるのが難しかった。 ・ティーンズフェスで子どもたちに伝えるポイントが伝えない。 ・しよとと議事を伝えるのが難しかった。</p>
--	--

大人に考えや思いを伝えてみて感じたことは？

・区長が自分たちの意見や思いを受けとめてくれたのがうれしかった。
・メンバーとスライドなどをまとめたときにみんなが協力したのがうれしかった。
・他人の意見を聞いて、楽しかったしよく分かった。
・またやってみようと感じた。

チームでチャレンジに取り組んでみて、どうだった？

最初は毎月はしどかたけど、チームで意見を話す大切さや自分から意見を言うことは今後役立つのでよい学びになったと思う。

とうしょ う み さんか きょうみ つう
当初は受け身で参加していたメンバーも、もともと興味があったテーマやワークを通じて
かんしん ち いけんひょうめい つう いけん ていあん おとな つか
て関心を持ったテーマについてのチャレンジ・意見表明を通じて、意見や提案を大人に伝
えることのむずか の こ じぶん おも つた たの かん
しさや乗り越えながら自分で思いを伝えることの楽しさを感じることができた
ようです。

ほうこくかいかんらんしゃ 報告会観覧者アンケート

11月の報告会には、区長・教育長だけではなく、メンバーのご家族、地域関係者、学校の先生方など多くの方が観覧にいらっしゃいました。観覧の皆様からいただいたアンケート内容の一部をご紹介します。

属性	報告会をご覧いただいたご感想をぜひお聞かせください。	ティーンズメンバーに一言、メッセージをお願いいたします。
参加者のご家族	地域の未来を共に考える貴重な時間となりました。	小中高生のみなさん、本日はお疲れ様でした。 それぞれの立場で真剣に考え、区長含めた行政に意見を伝える姿勢に大きな力と可能性を感じました。 どうか誇りをもってこれからも自分らしく歩んで成長することを心から応援します。
参加者のご家族	中高生の考えたことに対し、区の関係者の皆様がコメントをされていて、社会で働いている行政を担当する大人が中高生に正面から答えてくださった経験は、中高生にとって将来の礎になると思いました。	“参加してみよう”と思われたメンバーの皆様は拍手です！！
地域関係者	ティーンズ会議、若者会議、毎年それぞれの報告会に参加させて頂いていますが、類似テーマでも、参加者によって着眼点が変わり、今回も様々な気づきを得ることができました。 ありがとうございました。	提言もそこに至るプロセスも素晴らしい取り組みだったと思います。 地域の大人として、今日、見聞きした理想を現実に変える一助になりたいと思いました。
地域関係者	子どもたちが自分の声を出す際に、自分の意見をしっかりとするための準備をすることの大切さを知りました。とにかく私自身が教えられたことばかりです。 こうした機会がもっとたくさんあって、様々な大人も聞くことができるといいですね。 皆さんの考えに〇×をつけるのではなく、どうしたら皆さんの意見が実現できるか、	お疲れ様でした。 素晴らしい活動です。これからは恐れることなく、どんどん、ご自分の考えを発信してってください。 皆さんの意見にハッとした大人はたくさんいたと思いますよ。これからは期待しています。

	大人も含めて一緒に考えていく必要性を実感しました。	
学校関係者	小中高生の意見を行政に生かすというのはとても素晴らしい取り組みだと思います。 高校生の参加者がもっと増えると、次のステップである「若者会議」にもつながると感じました。	お疲れ様でした。 自分から参加した人、勧められて参加した人、お願いされて参加した人など、それぞれだと思いますが、この経験は必ず皆さんのこれからの人生に役立っていくと思います。Keep it going!!
中野区子ども・子育て会議委員	決められた時間割とフォーマットで、小学生から高校生までしっかりと発表できたのは素晴らしいと思います。	報告会まで走り切った皆さん、おつかれさまでした。 自分たちが提案したことが、どれくらい実現したのか、しっかり見守ってください。
中野区議会議員	小さいと思える子どもたちが、それぞれ想いを抱えていること、いろいろ考えていることに気がきました。	児童・生徒たちが一生懸命に提言をまとめた姿が素晴らしかったです！ 最後までやり遂げて、おめでとう！！
区役所関係者	10代が率直に意見を言い合えるこの場があること自体、価値があるとおもいます。	自分らしさを忘れずに、これからも自分のコンパスを大事に、頑張ってください。
区役所関係者	どの報告もとても視点がすばらしく、たくさんの気付きや学びをいただきました。	素晴らしい発表をありがとうございました。ご準備等、大変なこともあったことと思います。 善いことを実現できるように、大人たちがまず変わらなければならないと強く思います。
他自治体からの視察	こどももおとなも一緒に対等に、自分ごととして自分のまちとして考え、よりよくするにはどうしたら良いかを考え続け、とりくみ、改善していくという素晴らしい循環の一端を見させていただきました。ありがとうございました。	みなさんのようなまちの未来を担う若者が育っている中野区、とてもすてきな町だと思いました。 まちのみらいは自分たちが創るという今日の視点をどうか大切に、これからも活動頑張ってくださいね。 とても素晴らしい発表を聞かせていただきありがとうございました。
他自治体からの視察	提言の内容がそれぞれすばらしかったです。	参加すること、意見を届けること、協力してまとめることが自分のまちをつくり、未来を変えていけること、しっかり感じたと思います。気持ちを持ち続けてください。



なかのく、しょうちゅうこうせい、みな、ぜんりょく、おうえん
中野区は、小中高生の皆さんの「チャレンジ・アクション」を全力で応援します。

みな、かいぎ、とお、え、かんが、きづ
 皆さんがティーンズ会議を通して得た考えや気づきを
 つぎ、くふう、じぎょう、すす
 次のステップにつなげられるよう、工夫をしながら事業を進めていきます。

こんご、さんか、ま
今後とも、みなさんのご参加をお待ちしています！

はっこう、なかのく、こ、きょういく、ぶ、こ、きょういく、せいさく、か
 (発行) 中野区子ども教育部子ども・教育政策課

じゅたくじぎょうしゃ、にんてい、ほうじん
 (受託事業者：認定NPO法人カタリバ)

(TEL) 03-3228-5605

(MAIL) kodomo-tyosei@city.tokyo-nakano.lg.jp